

山部会の課題解決手法に関わる参考資料

目次

- 1. 山村再生担い手づくり事例集 参考資料..... 1
 - (1) 「農山村へのシフト 今・未来」シンポジウム資料..... 2
 - (2) 伊勢・三河湾流域保全・再生調査資料..... 10
- 2. 矢作川流域山村ミーティング 参考資料..... 15
- 3. 森づくりガイドライン 参考資料..... 18
 - (1) 東京都水道水源林資料..... 19
- 4. 木づかいガイドライン 参考資料..... 27

1. 山村再生担い手づくり事例集 参考資料

矢作川水系森林ボランティア協議会

代表 丹羽健司

〒450-0001 名古屋市東区那古野 1-44-17 嶋田ビル 203

TEL: 090-4160-9065 (丹羽健司) FAX: 052-581-8161

HP: <http://www.yamorikyou.com/> e-mail: yamorikyou@yahoo.co.jp

先人達が苦勞して植林したスギやヒノキの人工林が、今とても危険な状態になっています。木材輸入の自由化や過疎化などにより林業が衰退し、森林に人の手が入らなくなつたまま放置されています。放置された人工林は、混み過ぎて健全に成長できずひよろひよろのモヤシのような木になるばかりでなく、太陽の光が地面に届かず下草が茂らないために、雨によって大切な土壌が流されてしまいます。そして、根がむき出しになり、地面の保水力も著しく低下して土砂崩落や洪水の危険が増します。そんな現状を科学と五感で明らかにし、「山の手入れを知らない素人山主さん」と森林ボランティアが交流・学習することで、「山仕事の心と技と楽しさ」を伝えることが「矢作川水系森林ボランティア協議会」(通称「矢森協」)のミッションと考えています。

基本さえ学べば素人でも山の手入れ、森づくりは可能です。とよた森林学校等で科学的に森を調べ、安全にチェーンソーを操作できるようになった老若男女約250人が個性豊かな12グループで活動しています。効率を追わず愉しく多様な森づくりを地元と一緒に進めています。また、「森が元気に、人が元気に」を合言葉に、森の健康診断や、木の駅プロジェクトを応援しています。

とよた都市農山村交流ネットワーク

代表 山本薫久

〒444-2816 豊田市杉本町三斗成 1-3

TEL&FAX: 052-68-1113 携帯電話: 090-5453-6411 (山本)

HP: <http://www.toyotasanson.net/> e-mail: nosanson@hm10.aitai.ne.jp

とよた都市農山村交流ネットワーク 校



2008年12月10日結成総会。80人が参加。その中心になったのは志の高い「田舎」の人々。3年間、2泊3日小学校5年生の農山村体験を受け入れてきた小原・旭・稲武・足助・下山など農山村地域の有志の面々。自らが暮らす農山村をとて愛し誇りとしています。だからこそ農山村の過疎化には心痛めている。

そんな有志の面々が、力を合わせよう、自分たちでやれることはやっていこうと動き出しました。都市と農山村の交流事業、農山村地域代表が集まって話し合った幹事会、農家力アップ連帯力アップめざした研修会、ホームページや通信による情報発信、都市部住民を農山村の仲間にする「山里学校」: ほぼどれもが毎月開催実施。豊田市農山村部地域を横断するネットワークの絆と信頼感は確実に高まっています。



NPO 法人共存の森ネットワーク

理事長 塩野米松

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 5-15-3 R-rooms 三軒茶屋 1-A

TEL : 03-6450-9563 FAX : 03-6450-9583

HP : <http://www.kyouzon.org/> e-mail : mori@kyouzon.org



当NPOは、高度経済成長期前の日本で当たり前だった暮らし、すなわち、エネルギーとなる薪炭や動物、農作物といった食糧、家具・道具になる木材など、生活に必要なあらゆるものを自然の恵みから自らの手で賄って生きていた暮らしの中に、これからの社会を構築していくためのヒントがある、と考えています。私たちは、若い世代とともに、今なおそうした暮らしが受け継がれる農山漁村の暮らしに目を向け、そこに住む人々の知恵や技、人生観、価値観を学ぶことを通じて、これからの新しいライフスタイルや持続可能な社会を構築するべく、活動をしています。以下、主な活動です。

- ・「森の聞き書き甲子園」毎年全国の100人の高校生が「森の能手・名人」に一对一で聞き書きを行う。
- ・「共存の森づくり」大学生を中心としたメンバーが農山村集落に入り、地域の方とともに森づくり、地域づくりを行う。全国のか所にて展開。
- ・「なりわい創造塾」20代、30代の自然や人に寄り添った、これからの時代に求められるライフスタイルのデザインをサポートする。

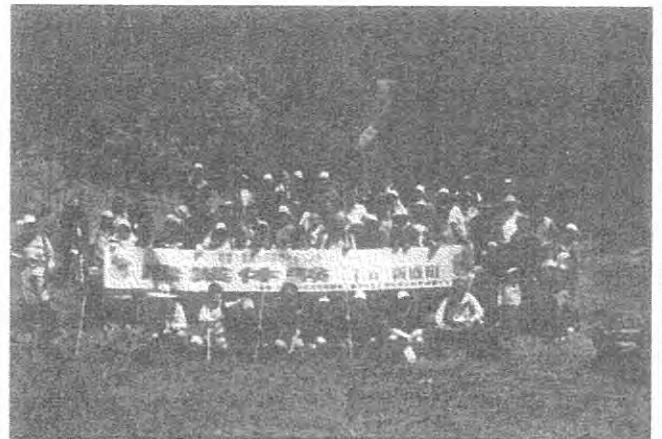
「共存の森づくり」については、豊田市椿立自治区に拠点の一つがあり、東海地方の大学生、高校生が中心となつて約50戸、200人が暮らす山間の地域にて活動をしています。地域の信頼関係を深めながら、若者という立場を活かして、地域の暮らしを未来へつなげるお手伝いができればと考えています。

トヨタ自動車労働組合農業体験活動

組合員数・・・約 63,000 組合員

窓口・・・社会政策局

0565-24-1160



組合の運動方針より(一部抜粋)
組合員から、退職後を含めて地域社会と接点や関わりあいを通じた『生きがい・やりがい』を求める声が少なくない。組合として求められるニーズをしっかりと把握し、地域社会との共生に向け積極的に行動していく必要がある。

活動の趣旨

○地域での活動への参画
地域の方とのふれ合い、各地域活動への参画するきっかけづくりとする

○組合員のふれあいの場
田植えや稲刈りなど組合員が共同で体験

○社会貢献
休耕田復活・自給率向上・自然と人間と社会のあり方を学ぶ

経緯

豊田市の中山間地域で問題になっている「耕作放棄地」に着目。農業後継者不足から耕作放棄され田んぼが荒れている現状に対し、みんなで田んぼを蘇らせようと先期より活動を開始しました。子育てが一段し、余暇の過ごし方をお考えの方やセカンドライフをお考えの方、また本格的に農業をやりたい方を募集。

森の健康診断

〒450-0001

名古屋市中村区那古野 1-44-17 嶋田ビル 203

TEL : 090-4160-9065 (矢森協) FAX : 052-581-8161

HP : <http://mori-gis.org/> E-mail : yamorikyuu@yahoo.co.jp

矢作川は流域面積の約1/3をスギやヒノキの人工林に覆われています。2004年、この流域で活動する5つの森林ボランティア団体により「矢作川水系森林ボランティア協議会(矢森協)」が結成されました。矢森協は森林所有者と交流して間伐を進めるだけでなく、地域の森林研究者との協働により、市民参加型の人工林調査「矢作川森の健康診断」を開始しました。2005年から2011年にかけての森の健康診断にはあわせて約1700人が参加し、矢作川流域の人工林約460地点を調査しました。

これまでの調査結果から、全地点のおよそ7割がヒノキ林、1割がスギ林、残り2割が混交林で、全体の5/7割が過密な、現時点で間伐を必要とする林であることや、標高が低いほど過密な林の割合が高くなることがわかりました。また植栽木の密度が低いと、植栽木以外の樹木の種数と、草と低木の被覆率および種数が高くなることから、間伐によって林内の植物を増やせると考えられました。

森の健康診断は、その成果が豊田市の定めた間伐目標面積に反映されているだけでなく、参加した一般市民に、自然観察と交流を楽しみながら易しい手法で調査を行い、人工林の実態を科学的に知ることに充実感と達成感をもたらします。このことを通じ、人工林整備の必要性についての世論を喚起し、問題解決に貢献できる人材を増やすのがねらいです。森の健康診断は市民と研究者の協働で行われ、行政の森林施策や森林所有者の意識にも影響を及ぼしていく可能性を持った全く新しいスタイルの調査事業であり、現在は出前講座やWEB・GISサイトの利用を通じて全国34都道府県に展開しています。

とよた森林学校OB会

〒444-2816

豊田市杉本町三斗成 1-3 農山村交流・中継センター「杉ん子の里」

TEL : 0565-68-1113



2011年4月24日に発足。現在、会員数は140名を超えます。OB会は、とよた森林学校の修了生のうち希望して参加するものから構成され、豊田市と森林学校事務局の支援を受けつつも、会員から選ばれた幹事によって自主的に運営される組織です。

OB会の特色ある事業の一つに、市外での自然観察会があります。豊田を飛び出し、普段ではお目にかかれない植生を見に出かけます。今年度は、鳳来寺、八ヶ岳、尾鷲へ出かけました。豊田では見ることのできない森林の姿や植生を見ることにより、豊田の森林に対する認識もより深まるように思います。

もう一つ、OB会の試みとして、今まで森林学校の講座の一つであった間伐技術ステップアップ講座の自主運営があります。森林学校の講座からは外れ、参加者負担は増加しましたが、満足度の高い、内容の濃い講座が開催されました。

他にも、間伐モニタリングや、出張持ち山鑑定団など、来年度以降、本格的に始動していく事業が数々あります。今後の展開が楽しみです。

新盛里山耕流塾

〒444-2424

豊田市足助町宮ノ後 26-2

豊田市役所 社会部 足助支所

TEL : 0565-62-0501 FAX : 0565-62-0606

e-mail : asuke-shisyo@city.toyota.aichi.jp



新盛里山耕流塾では、豊かな自然の恵みや里に息づく生活の知恵や技をふれるいろいろな講座を開講しています。家庭菜園にチャレンジしたい方、安心安全な食に興味のある方、自然豊かな里山での生活を考える方などみなさんの参加をお待ちしています。

主な講座

旬裁食（田・畑での農作物の栽培から調理まで、里山での一年の暮らしの営みを体験）

もりの里☆市民農園（農作業初心者を対象に、稲作や野菜の育て方を学びます）

炭焼き講座（里山の代表的な資源となる炭焼きを実践するとともに活用を学びます）

そばづくり講座（そばの栽培から収穫、そば打ちまで実践します。）

豊森なりわい塾（豊森実行委員会）

実行委員長：澁澤寿一（NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会理事長）

〒460-0014

名古屋市中区富士見町 9-16 有信ビル 2 階

TEL:052-331-1043 FAX:052-339-5651

HP:<http://www.tpyomori.org/> e-mail:info@toyomori.org



「豊森」とは、豊田市・トヨタ自動車株式会社・NPO法人地域の未来・志援センターの協議のもと行う森林を活用した「人づくり」「地域づくり」「仕組みづくり」のプロジェクトです。多様な人材の参画によって、森を中心とした自然生態系の利用を軸とする地域循環型・持続型社会の仕組みが生まれ、暮らしの中で人と人の心をつなぎ直す「豊森モデル」を構築することを目指しています。

2009年5月から2010年12月まで実施された第一期「豊森なりわい塾」では、塾生のなかから実際に山里に移り住んで、地域の針葉樹を活用した家具づくりの工房を立ち上げたり、ふるさとにリターンして事業をスタートさせるなど、地域に根ざした事業を始める人や、農山村での新たな生き方を選択する人たちも現れました。

昨年4月からスタートした、第二期「豊森なりわい塾」（2013年3月）では、現在、26名の塾生を対象に毎月2日間の講座を実施。旭地区の集落に入らせていただき、地元学や聞き書きで、地域のことを学ばせていただきながら、「暮らし（暮らしをつくる力）・つとめ（地域を支える力）・かせぎ（なりわいを構想する力）」をキーワードに、これからの時代の生き方や地域づくりのあり方をみんなで学んでいます。

日本再発進！若者よ田舎をめざそうプロジェクト 株式会社 M-easy

代表取締役社長 戸田友介

〒444-2811 豊田市太田町蟹田6番地 福蔵寺

TEL：0565-68-3025 FAX：050-3488-9128

「旭暮らし」blog：http://asahi-gurashi.seesaa.net/

facebook ページ：「旭暮らし」

email：info@m-easy.co.jp



2009年9月、過疎化高齢化に悩む中山間地域である豊田市旧旭町へ、若者が移り住み、日本の農山村で培われてきた「結いの心」や生きがいを再発見し、安心安全な農業を中心とした農村コア・ディネータとして、人々の生活を守り、豊かな自然環境、豊かな人間関係、豊かな生活を実現する先駆けを目指すことを目的として、豊田市、東京大学、株式会社 M-easy の産官学連携事業です。

難題を抱える二十一世紀。多様な価値観を認め合い、自ら答えを出していく必要があるこの時代に、私たちは、人、大地、生き物とのつながりを取り戻し新しい未来を創っていくために、「田舎をめざす」という道を選択しました。

ひとのあたたかさ、皆で地域をつくりだす気構え、豊かな自然と豊富な食と文化、手足を使い技を磨き五感で味わう暮らし、私たちが学んでいきたいことが田舎にはあります。

原点から携わり、シンプルで安心な食と文化を私たちの暮らしからお届けしていきたいと思っています。

まだまだ、道半ばではございますので、今後ともあたたかく見守っていただけましたら幸いです。

私たちの「旭暮らし」をブログで発信しています。ぜひご覧ください。

あすけ夢里まつり

実行委員長 北原さとみ

e-mail satomintnya@hotmail.com



あすけ夢里まつりは、2008年に豊田市在住の若者が中心となって始まりました。手作りの良さを伝えたい、豊田を楽しみたいところにしたという思いで創ったまつりは、たくさんの人たちの共感を呼び、大好評に終わりました。翌年には、足助の若者たちも一緒に、山里・農山村への思いを込めた夢里まつりを開催しました。

4回目のまつりとなった2011年には、衣・食・住の暮らしを中心に、私たちの考える理想的な生活空間、夢の里を作りました。毎年好評の手作り市その他、米の脱穀、はた織り、竹細工などの「作る」ワークショップ、野良着ファッションショーなど、一日だけの「夢の里」をたくさんの方たちと一緒に楽しみました。

アグロ・プエルタ agropuerta ~農への扉~

代表 藤本浩幸 sayaringo@rr.em-net.ne.jp

facebook ページ アグロ・プエルタ

「アグロ・プエルタ」は、農や自然を楽しみながら、食や暮らしのあり方を見つめなおすきっかけとなるような場があったらいいなあ、という想いから生まれたサークルです。

活動といえば、まずはやっぱりみんなで畑を楽しむ！そしてBBQや映画上映会などのイベントをみんなで企画したり、ファーマーズマーケットに出品してみちゃったり！

農家さんや家庭菜園などすでに、農を楽しむ人、ちよつと野菜作りに興味のある人、または美味しい野菜が好きなのもそうでもない人も、誰でも気軽に参加OK！とにかく農ライフでつながる人と人との交流をみんなだめいっぱい楽しむ！笑顔のある場所には、ドンドン笑顔が集まってくる！そんな笑顔であふれるサークルにできたらと思っています！

イキイキ、ワクワク！農ライフコミュニティ「アグロ・プエルタ」をどうぞよろしくお願いたします！

イキイキ、ワクワク！農ライフコミュニティ「アグロ・プエルタ agropuerta」農への扉

畑仕事のあの土の匂い、きこえる風の音、虫や鳥の声、いいですね。

野菜たちの生き生きとした表情を見れば、僕はこの大地に、生かされている、んだなあって、しみじみ感じています。



green maman

〒471-0013 豊田市高上2-24-13

TEL&FAX : 0565-89-1186

blog : <http://www.toyomori.org/> e-mail : ukackey@yahoo.co.jp

2007年6月に環境活動家 田中優氏の講演会の開催が green maman の活動の始まりです。

メンバーの4人は乳児から小学生を持つ母。私たちは母として、「戦争のない、平和な社会であって欲しい」と願い、主に環境・平和・暮らし等の情報発信をしています。

主な活動は、寺部町の守綱寺をお借りして開催している green maman の朝市(冬期以外毎月開催)。

主に豊田の農山村で真摯に農業と向き合っている農家さんに出店して頂いています。農家さん以外にも、地産地食、フェアトレード、手作り小物などが並び、幼児連れのお母さん達と生産者の方の交流の場にもなっています。

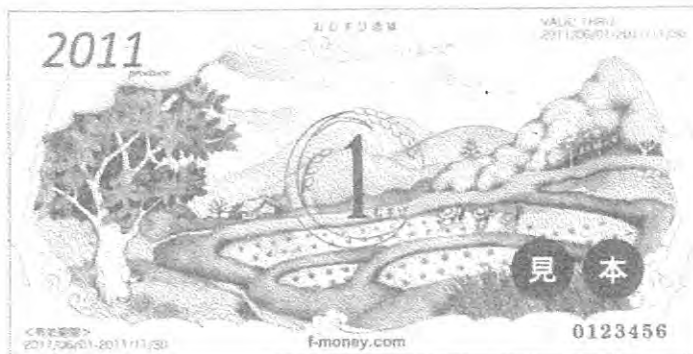
朝市の他に、「暮らしの寺子屋塾」では、持続可能な社会をつくる為に、水問題、エネルギー問題、農と食の問題、自然農、自然療法のワークショップなどを開催してきました。また、冬期の「maman の台所」では味噌仕込み、保存食作り、野菜や雑穀の料理教室などを開催し、毎回たくさん親子連れが参加してくださっています。

昨年はメンバーで米作りにチャレンジしました。今年も農ある暮らしを楽しみたいと思っています。

ゆっくりではありませんが、green maman は、私たちと繋がるお母さんたちと共に、明るい未来が築ける様、一步一步進んでいけたらと思っています。

おむすび通貨

おむすび通貨伊勢三河流域本部
 事務局：物々交換局 代表 吉田大
 〒444-2303
 豊田市野林町カウロゲ 46-5
 TEL&FAX0565-63-2025



わたしたちは、生命世界と結ばれた地域共同体の再生を目的として2010年から、おむすび通貨を発行しています。おむすび通貨は、足助、岡崎、名古屋等の地域密着型の事業所で現金として使うことができ、最後にはおむすび1個分の地元のお米に変わるというユニークなお金です。

多くの地域通貨や地域振興券では加盟店であれば日本円に換金できますが、おむすび通貨はそれができません。加盟店が受け取った通貨は、お米にして食べるか、他の加盟店で現金として使うよりほかがありません。おむすび通貨には加盟店同士で二次流通が起こりやすいという特徴があります。

おむすび通貨を受け入れることで、縁が広がり、商店街などの共同体内部での絆が深まるということが、実体験を通じて少しずつ理解されるようになってきました。日本円に換金できないので広まるにはまだ時間がかかりそうですが、いずれ、商店街組合等で、自分たちのために、おむすび通貨を導入しようという意識が芽生え、結果的におむすび通貨の流通量が増大し、助け合いのコミュニティが町で息を吹き返し、土に根ざした暮らしが村に戻ってくることを期待しています。

交流会や農体験を通じて、ともに学び合うことから始めましょう。

夢農人とよた

夢農人とよた会長 鋤柄雄一
 夢農人とよた事務局 (株式会社ルーコ内)
 〒471-0079 愛知県豊田市陳中町 2-2-21 HAビル
 TEL: 0565-34-2171 FAX: 0565-34-2177
 e-mail: otoiawase@yume-note.com



安心・新鮮な地元農産物が集まるお店
農家の市 夢農人マルシェ

米、野菜、茶、花、産産物王国なら
 地元産産物のこだわりの品を販売

次回のマルシェ開催日
3月17日(土)
 AM10:00～PM3:00

0565-34-2171

夢農人とよたとは「世界一の自動車城下町」と呼ばれる西三河地域の中にありながら、時代に流されず、地道に高品質の農産物を提供し続ける20代〜40代を中心とした若手プロ農家集団です。

平成22年9月に発足し、稲作、果樹、露地野菜、園芸、畜産など様々な分野のスペシャリスト、26農家が揃っています。

我々農家は、日本の人口の1%にも満たない、このままでは世の中から消えてしまう、まさに絶滅危惧種です。そんな危機感から、この豊田から新しい風を起こすべく立ち上がりました。

Made in TOYOTA 豊田ブランドと呼ばれるモノづくりのまちには、実はこんなにも素晴らしい農産物があるという情報発信をし、農業や食に対する我々農家の強い思いを具現化することで、皆様にもより深く理解して頂けると確信しております。

そして、それが農家と市民の距離を縮め、行政の進める地産地消の促進にも繋がるのです。

是非とも、我々の作る農産物を積極的に食べて頂き、応援して頂きたいと存じます。

【参考資料】

環境省中部地方環境事務所 HP 生物多様性保全活動マップ

<http://chubu.env.go.jp/nature/mat/eco-map/index.html>

伊勢・三河湾流域 生物多様性保全活動団体情報

伊勢・三河湾流域における生物多様性保全・再生とその持続可能な活用に取り組んでいる団体についてのご紹介と情報活用のための公開サイトを開設しました。活動への参加や団体同士の連携の参考としてご利用下さい。

【掲載情報について】

- 当サイトは、平成20年度より中部地方環境事務所にて公開しておりました『生物多様性保全活動マップ』に、新たに情報を追加、再編集を行ったものとして公開しております。
- 当サイトに公開している情報は、「平成22年度生物多様性地域対話等を通じた生物多様性を支える市民・地域による戦略的地域づくりビジョンの実践のための調査」の一環として作成したものです。
- 団体情報は、PDF形式にて公開しております。
- ここに掲げた団体は、「伊勢・三河湾流域保全・再生調査(注)」を通じて把握できた生物多様性保全に取り組む団体の一覧で、伊勢・三河湾流域には今回掲載した団体以外にも多くの団体が活動しています。

マップから選択			
カテゴリから選択			
活動場所 (県)	活動場所 (水系等)	対象とする 生態系	活動内容
生物多様性保全活動団体一覧			

(注)伊勢・三河湾流域保全・再生調査とは

環境省中部地方環境事務所では、平成20年度より、伊勢・三河湾流域の生物多様性保全や持続可能な利用の推進を目的とした「伊勢・三河湾流域保全・再生調査」を第1期～第4期にわたり実施しています。この調査は「伊勢湾・三河湾流域再生交流会議」「伊勢・三河湾流域ネットワーク」「生物多様性フォーラム」と協働で行い、民間団体の活動の光(喜び)や影(苦悩)などの「生の声」を聞き取りました。この調査を通じて、民間団体同士の課題を共有すること、課題解決に向けた知恵を交換すること等のプロセスを通じ、伊勢・三河湾流域の保全・再生に向けて、人びとのネットワークが広がりつつあります。

なお、第1期調査は平成20年度、第2期・第3期調査は平成21年度、第4期調査は平成22年度に実施しました。

調査団体名	NPO法人山里文化研究所	団体代表者名	清藤奈津子
設立年	2003年	団体URL	http://www.yamazato4.com/
活動地域	中津川市、恵那市、篠島	調査員	杉野
取材日	2009/11/18	レポート作成者	杉野賢治
聞き書きで伝える山里の文化			
<活動内容>			
<p>1) 都市と山村の交流事業: 山里暮らし塾<棚田石積み塾、炭焼き、味噌作り、こんにゃく作り、かまど(煙道)作り>、山里ふあんくらぶ<農的暮らしをテーマに、山里でゆったりした時間を楽しむ>、ぼっちゃんふあんくらぶ<次世代のかわいいぼっちゃんを目指す></p> <p>2) イベント主催</p> <p>3) 山村に暮らす先輩たちの思いや知恵を、きちんとした形(本)で残すこと: 聞き書き、「聞き書き塾」の出前開催・運営人と関わるプログラム、森林と関わるプログラムの両方を柱としながら、山里力を発揮する方向へ導く。</p>			
<会のモットー(何を大切にしているか)>			
見守るだけでなく、関わっていく。			
<設立から現在に至るまでに変化したこと>			
最初は森林環境教育からスタート。愛知万博が終わってから、山里の文化を継承していくことにウエイトを置く。			
<連携している団体・専門家・自治体など>			
恵那市林業振興課、農業振興課			
<今までに行った調査・研究>			
聞き書き: 恵那市北部(中野方)、恵那市南部(奥矢作)、篠島			
<現在直面している課題>			
人材の確保、人材確保に伴う経費。拠点施設が欲しい。			
<今後やってみたいこと>			
日本中でこれ(聞き書き)が始まるきっかけづくり。当研究所理事である、聞き書き甲子園を主催する洪澤寿一氏の働きにより、全国的な運動になってきている。田舎のじっちゃん、ぼっちゃんたちは本当によく働く。ものすごい知恵を受け継いでいる。日本人の文化そのものであり、どうしても継承すべきだと認識している。それを楽しく、そして知恵を学べる場をつくりたい。			
<そのためにはどんな情報・人脈が必要か>			
つなげてくれる人の発掘			
<チームオリジナルの質問>			
質問内容:	流域とどんな関わりを?		
答え:	<p>今は恵那を中心に行っている(中野方から岩村までは未曾川流域)。山から海までつながりを広めたい。そのために、篠島での聞き書きをしている。昔なら当たり前だったことが消え去ろうとしている。</p> <p>昔を懐かしむだけでなく、環境問題を真剣に考えなくてはならない今こそ、昔の暮らし方・生き方を学ぶときである。川上に住む山の衆たちは、川に汚いものを流したりしなかった。そんな流域全体の関わりを、山里文化を残すことによって、広く市民に伝えたい。</p>		

調査へ行く前に心にとめておくこと
(調査実施者マニュアル)

2009.07.01 伊勢・三河湾流域再生交流会議

●私たちの思い

かつての豊かな伊勢・三河湾を取り戻すためにネットワークをつくらう！

●今までの経緯

○2005年1月 伊勢・三河湾流域ネットワーク設立
(詳しい活動内容は <http://www.isemikawa.net/>)

↓

○あまりに現場を知らなかったことを認識・反省

↓

○2009年3月 環境省中部地方環境事務所が発注した事業において、伊勢湾・三河湾流域で生物多様性の保全に取り組む活動団体調査に協力
(35団体)

↓

○「現場に出かけること」が大事、都会の会議室に人が集まるだけではダメだと改めて実感。
このまま終わらせたくない！

↓

○流域調査を継続するため「流域再生交流会議」を開催

●流域再生交流会議のミッション

- ①現場に行って、直接、現場の人たちの苦悩や喜びや課題に触れる → 生の声を引き出す！
- ②その生の声をみんなで共有しよう！ → 「流域再生交流会議」独自のホームページにアップ
- ③課題をあぶり出す → 集い、知恵の交換をする

●調査対象団体の条件

- 組織・団体であること。
- 持続可能な人間の暮らしと豊かな自然環境の保全を目指して活動していること。

●調査の心得

正しく、深く、心も伝える。

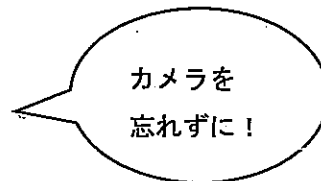
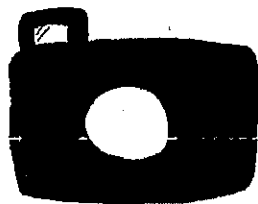
- 実地対面取材で行う。必ず現地で代表もしくはキーパーソンと面接して取材する。
- ともすれば思いが入り過ぎたり、持論に誘導しがちなので、気を付ける。そのために異カテゴリーの者を含めた複数人で取材する。

***** 調査対象団体・調査実施者の選定までの手順 *****

- ①調査参加者各自が「知られていないから広く知らせたい」「よく知られているけど、現場で実際に確認したい」などの団体について、推薦理由を記入・記名してリストアップする。
- ②全体会議において、そのリストから概ね5つのカテゴリーに分類し、そのカテゴリーについて詳しい者をそれぞれチームリーダーとする。
- ③調査は複数人で行い、原則的に異なるカテゴリーで活動する者(*)が主執筆者、推薦者は副執筆者または同行者として参加する。これはできるだけ取材内容に客観性を持たせるためである。
- ④主執筆者は希望者の中から話し合いまたは抽選などで決定する。できるだけ異カテゴリーの者がふさわしい。
- ⑤各チーム内の調査対象団体の変更や調査実施者の配置はチームリーダーが行い、デスク(今枝)に報告する。

●調査手順

- 調査の趣旨を伝え、アポをとる。
- 指定の「取材ノート」の項目について取材する。(別紙「取材ノート」参照)
- また、チームごとにオリジナルの質問を1問設定して、取材する。
- 成果と課題を具体的に表し、「光と影」「喜びと苦悩」を象徴する写真を撮影もしくは借りる。



- 結果を誰にでも分かるように、「取材ノート」と「報告ノート」(ホームページに掲載する書式)にまとめる。(別紙「報告書」参照)
- リーダーは担当チームの調査後の総括報告を行う。(別紙「チーム総括ノート」参照)
- デスク(今枝)へ交通費の請求をする。
(自宅～調査地までの公共交通機関の往復交通費。1カ所につき2名まで)

●今後の調査スケジュール

- 第1回調査期間：2009年7月～8月末 → 9月下旬～10月上旬に発表交流会を予定
- 2010年まで年に2回ほど実施する予定

2. 矢作川流域山村ミーティング 参考資料

●矢作川流域山村ミーティング準備会の議事概要

2012. 12. 13 (木) 18:30～ 於・足助交流館小会議室

参加者：南木（根羽森林組合）、小林（恵南森林組合）、松井・山本圭（豊田森林組合）、丹羽、山本薫久、洲崎

話題

【森林組合に勤務するIターン・Uターン者】

- ・ 根羽は技術者 10 人が全員 I ターン者。
- ・ 恵南は全体で 50 人いて、技術者 40 人のうち 12 人が I ターン者。
- ・ 豊田は作業員が 150 人で、緑の雇用で入ってきた 50 人のうち約 9 割が外部から来た人。
- ・ 岡崎は確か全員が I ターン者。

【定着率】

- ・ 3 年目までの離職率は結構高い。半分くらい。研修後やめられると痛い。
- ・ 半分なら残っている方だと思う。
- ・ 昔の I ターン者は給料がよくて残っていた。10 年以上前に入った人の定着率はよかった。

【技術の習得】

- ・ 時代的に、親方のいうことを全て聞くというのは終わりつつある。今更親方と弟子という関係は嫌。
- ・ うちが親方が絶滅した。自分も上の人間のような仕事も既にしている。親方がいない辛さがある。内実はズタボロと思う。
- ・ ↑事業地を交換しようか。

【地元との関係】

- ・ 根羽は宿場町で、I ターン者に厳しい。身銭を切ってまで I ターン者のために何かするという発想はない。何となく使い捨て感がある。一方で、根羽では消防団のメンバー＝青年団のメンバーで、ある世代から下はほぼ全員が I ターン者。祭りでは中心的な存在で、帰ってくる地元出身の子は回りで見ているだけ。何とか巻き込みたいのだが。地元に残ってる子は家業がある長男とか、出戻りとかが多い。
- ・ 串原村は I ターン者をあり得ないくらい受け入れてくれ、何をするにも応援してくれた。最近明らかに人口が減っている。1500 人から 700 人くらい。とにかく何かをやれという声がある。串原では他業種の I ターン者だけで集まり、地元と交流しようという動きが出てきている。
- ・ 足助は同じ年代の U ターン者が多いが、地元出身者と I ターン者の交流はレアケース。世代が変われば同世代と村の決めごとを作っていくことになるだろう。今交流できないのはさびしい。お祭りは地元の若者が中心。反面、香嵐溪では都会向けのいろいろなお

祭りがあり、農的暮らしの再現もあって、とてもいいが地元の若い衆が参加する事が無い。見に来るだけでもいいのに。足助には危機感がない。

丹羽：山村の人間関係の束縛とつながりは裏表。Iターン者は山村暮らしの面白さを伝える人たちになっていくとを感じる。糠床から化学反応が起きる。森林組合の人から見た山里の違いが面白い。アイデアとか、いずれはああなるとか、出し合うのが次のデータベースになるのでは。

*次回は1月23日（水）18：30～、足助交流館で開催

3. 森づくりガイドライン 参考資料



水道水源林

安全でおいしい水は
豊かな森林から

このパンフレットに関するお問い合わせは

〒198-0088 東京都青梅市真宿町600番地 東京都水道局水源管理事務所
管理課 TEL 0428(21)3893
FAX 0428(22)3150
技術課 TEL 0428(21)3897
FAX 0428(21)5034

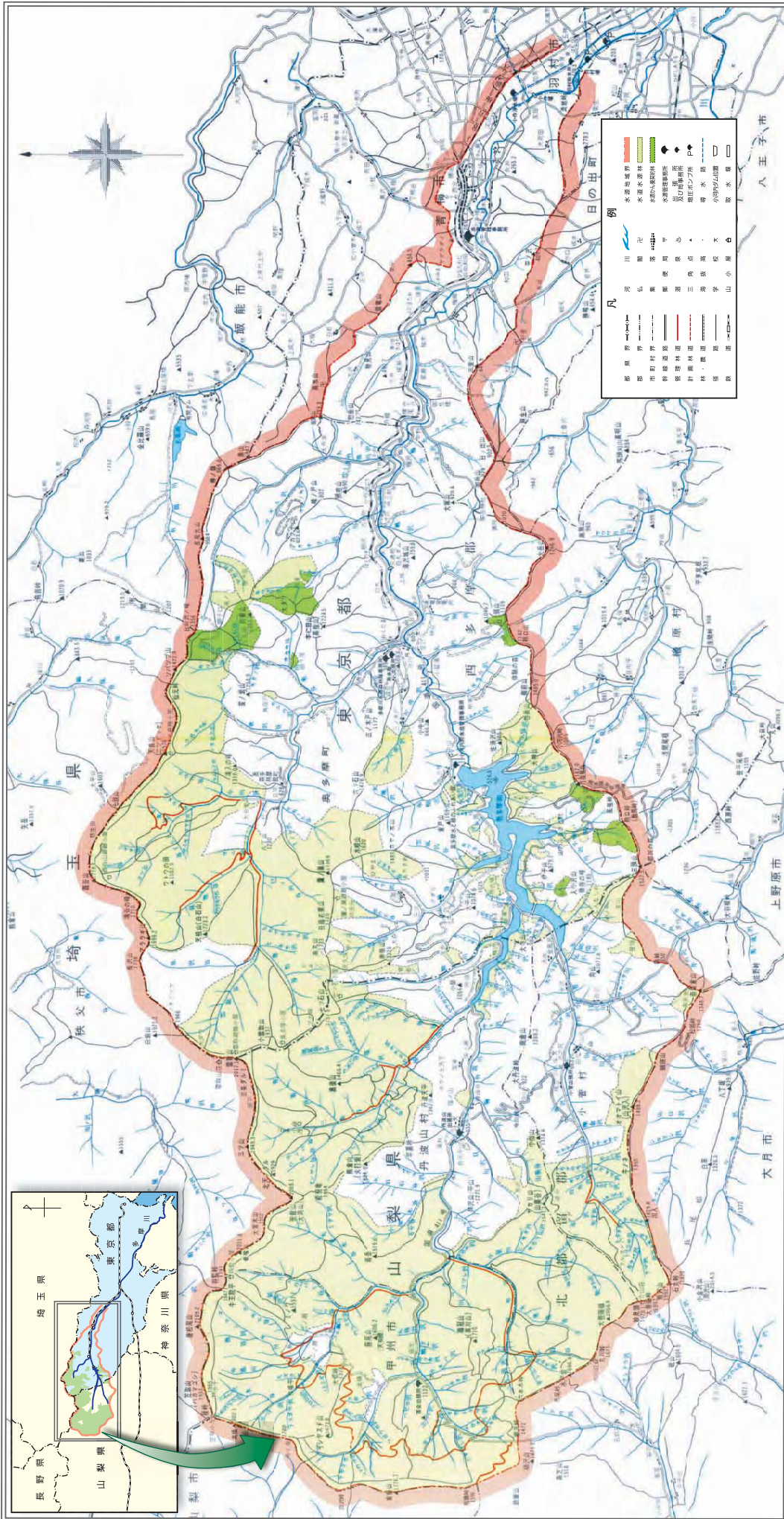
水道局ホームページ <http://www.waterworks.metro.tokyo.jp/>
平成21年度第4類 第114号 H21.9.3000



東京都水道局

- 1 水道水源林の広がり … 1
- 2 水道水源林の働き … 3
- 3 水道水源林の現況 … 5
- 4 水道水源林管理の目的 … 6
- 5 水道水源林の管理 … 7
- 6 水源地における交流・連携 … 11
- 7 環境対策 … 13
- 8 水道水源林の沿革 … 14

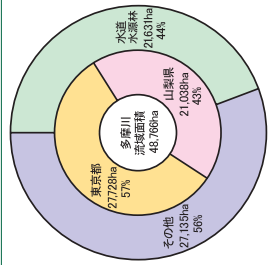
1 水道水源林の広がり



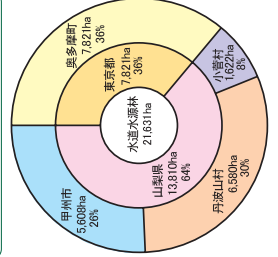
東京都水道局は、多摩川水源域の安定した河川流量の確保と小内貯水池(奥多摩湖)の保全を図るため、多摩川上流の森林を水道水源林として管理しています。その範囲は、東京都最西部の奥多摩町から山梨県小菅村、丹波山村、甲州市に至る、東西30.9キロメートル、南北19.5キロメートルに広がっており、面積は21,631ヘ

クタールに及んでいます。これは、多摩川の水を取り入れる羽村取水堰上流の流域面積48,766ヘクタールの44パーセントを占める広さで、東京都区部面積の約35パーセントに相当します。この中には、水道局が地権者と借地契約を結んだ上で「水源かん養契約林」として管理している森林が341ヘクタールあります。

羽村取水堰上流域に占める水道水源林の面積



水道水源林の所在地別面積



※本冊子の数値は、すべて平成21年4月1日現在のものを使用しています。

2 水道水源林の働き

● 水源かん養機能

健全な森林は、落ち葉などの有機物の供給が豊富です。たい積した有機物は、微生物や小動物の活動により分解され、スポンジ状で保水力の高い良い土壌を形成します。

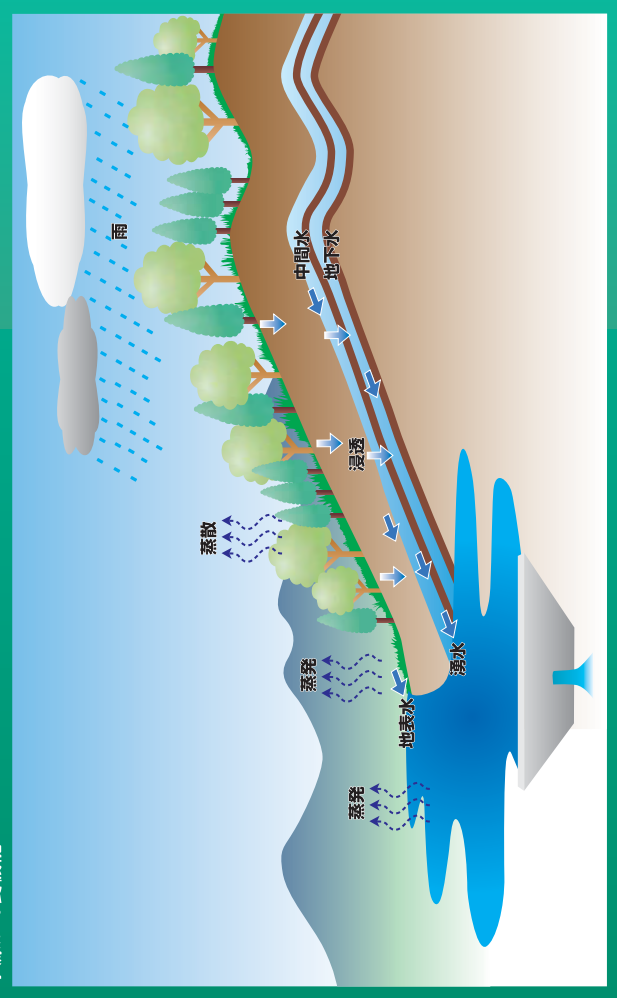
森林に降った雨は、このような土壌を通じて地中深くに浸透し、中間水や地下水となつて、ゆっくりと河川に流出します。この働きが**水源かん養機能**と呼ばれます。

森は緑のダム

森林は、水源かん養機能により洪水や濁水を緩和するため、「緑のダム」とも呼ばれています。

水道水源林全体では、約4,000万立方メートル（東京ドーム約32杯分）の水を蓄えることができます。

水源かん養機能

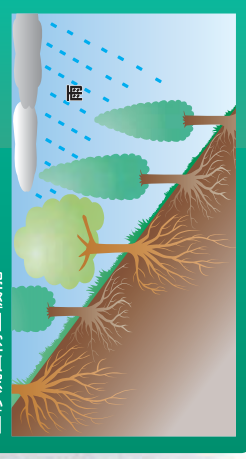


● 土砂流出防止機能

健全な森林では、樹木の枝葉や草、地上に積もった落ち葉などがクッションの役割を果たし、雨が直接地表に当たらないように働きます。また、良好な土壌では、雨が素早く浸透するため、地表を流れる雨水が少なくなります。これらから**土砂流出防止機能**と呼ばれています。

さらに、健全な森林では、樹木の根が土壌をしっかりと押さえるため、山崩れによる土砂流出が起きにくくなります。

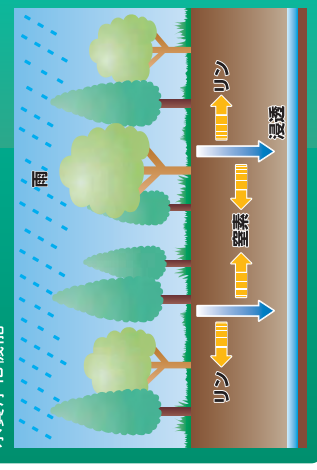
土砂流出防止機能



● 水質浄化機能

良好な土壌は、雨水が浸透する間に、ちり、窒素、リンなどをろ過・吸着・分解する浄化作用が働くため、雨水はきれいな水となって河川に流れ出ます。この働きが**水質浄化機能**と呼ばれます。

水質浄化機能



3 水道水源林の現況

● 概要

水道水源林は、標高約500メートルから2,100メートルの間に位置し、温帯性山地帯から亜寒帯性高山地帯に属しています。全体の面積の約3分の2は標高1,200メートル以上の高地に分布しており、その地形は甲州市の一部の地域を除いておおむね急しゅんです。

また、水道水源林の約97パーセントが森林法による保安林に、約98パーセントが秩父多摩甲斐国立公園区域に指定され、一部鳥獣保護区も指定されています。

● 天然林と人工林

水道水源林の森林の約70パーセントは天然林、約30パーセントは人工林です。

天然林では、比較的土壌の深い山腹や溪流沿いに、ブナ、ミズナラ、クリ、シオジ、カエデ類などの広葉樹を主体とする森林が広がっています。また、土壌の浅い岩場や標高の高い地域では、コメツガ、トウヒなどの針葉樹を主体とする森林が広がっています。

人工林では、幼木から100年を超える高年齢まで様々な樹齢のヒノキ、カラマツ、



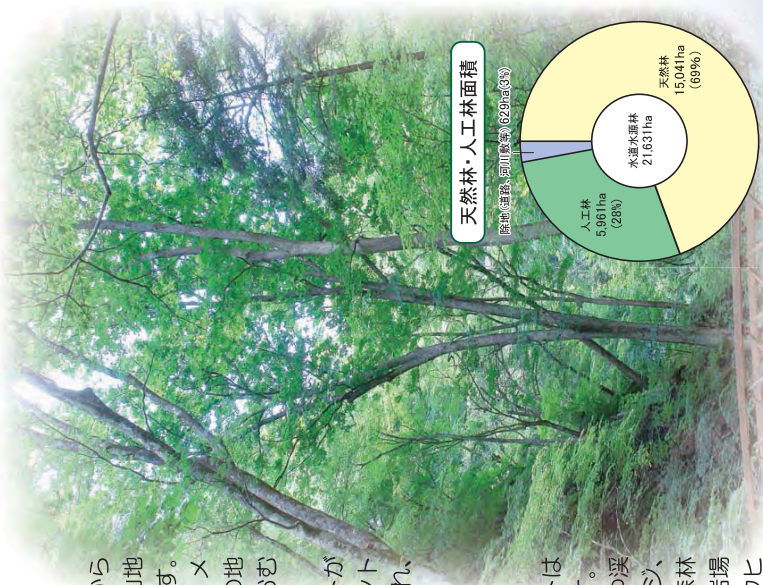
ブナ・ミズナラの天然林



コメツガの天然林



ヒノキとカラマツが混交した人工林



スギなどが植えられています。植栽樹種は、比較的標高が高いため、スギは少なく、ヒノキ、カラマツ又はこれら樹種を複数混交したものが多くなっています。

4 水道水源林管理の目的

● 水道水源林管理の目的

水道水源林の管理の目的は、良好な森林を保護・育成することにより、安定した河川流量の確保及び小河内貯水池の保全を図ることです。

● 水道水源林管理の基本方針

管理の目的を達成するために、次の事項を管理の基本方針としています。

- 1 水道水源林における水源かん養機能のより一層の向上に努めます。
- 2 小河内貯水池のたい砂防止のため、土砂流出防止機能のより一層の向上に努めます。
- 3 水道水源林における水質浄化機能のより一層の向上に努めます。
- 4 水道水源地であることを考慮し、自然環境の保護に努めます。
- 5 森林の育成と森林資源の循環を通じ、地球温暖化の防止に努めます。

この基本方針に基づき、第10次水道水源林管理計画(平成18年度から平成27年度まで)を策定し、適切な森林管理に努めています。

5 水道水源林の管理

● 森林の管理・育成

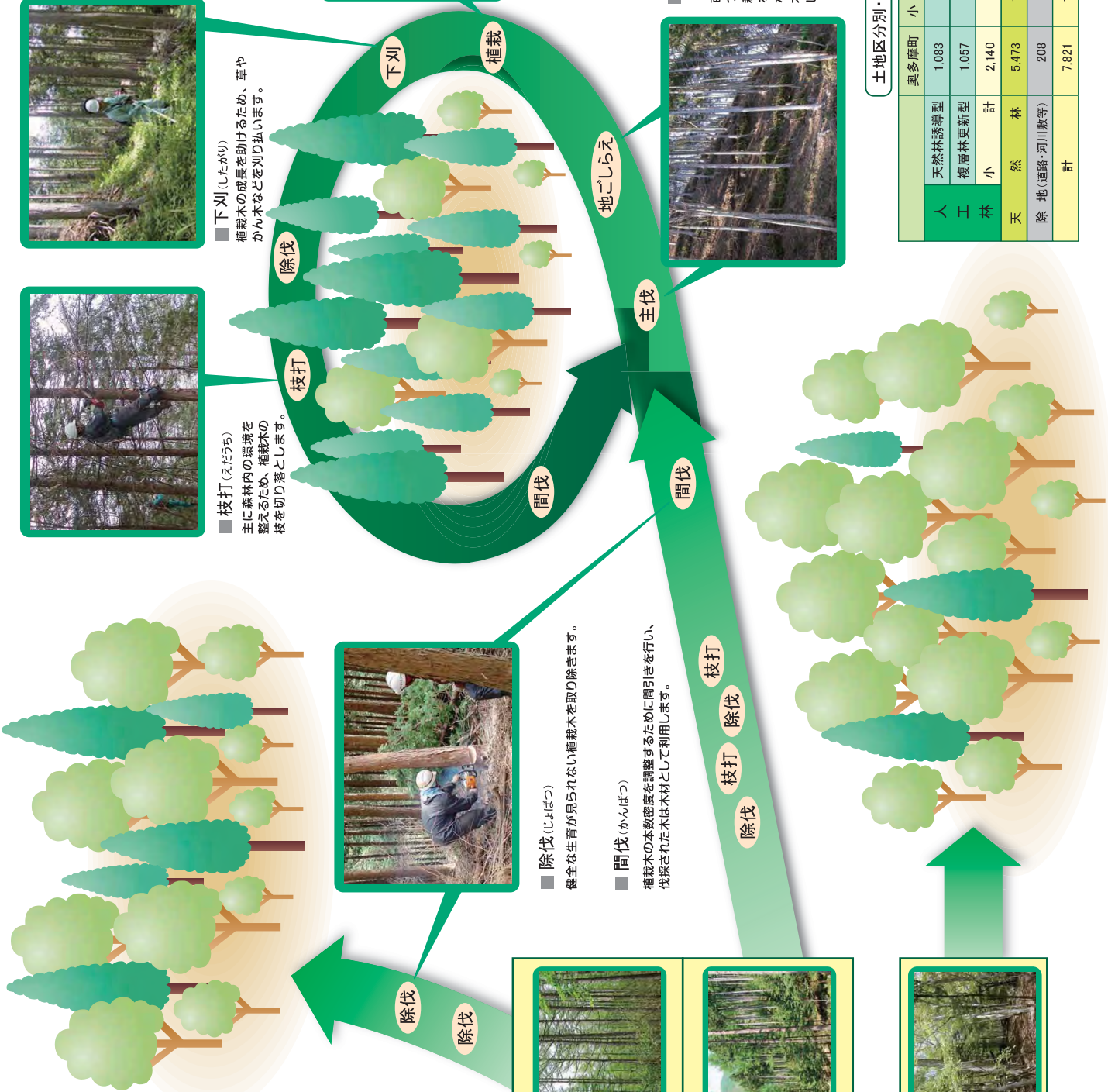
森林を健全な状態で維持し、水源かん養機能等を高度に発揮させるためには、目指す森林に合った管理をすることが必要です。

そのため、人工林では、立地条件に合わせて天然林誘導型森林と複層林更新型森林との二つのタイプに分け、森林のタイプごとに生育途中の各段階で様々な手入れを行っています。

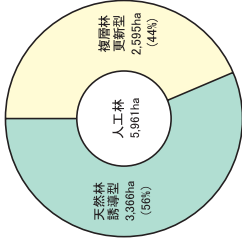
また、天然林では自然の推移に任せ、その土地で最も安定した森林を目指します。

立地条件が悪い森林	天然林誘導型森林 人工林を間引き、生じた空間に、広葉樹を育てます。
立地条件が良い森林	複層林更新型森林 水源かん養機能の高い複層林にし、伐採された木は社会へ供給します。

天然林	自然の推移にゆだねます。
-----	--------------



人工林タイプ別面積



土地区分別・所在地別面積

		土地区分別・所在地別面積					計
		奥多摩町	小菅村	丹波山村	甲州市	計	
人工林	天然林誘導型	1,083	162	626	1,495	3,366	
	複層林更新型	1,057	248	415	875	2,595	
小計		2,140	410	1,041	2,370	5,961	
天然林	計	5,473	1,176	5,398	2,994	15,041	
除地(道路・河川敷等)	計	208	36	141	244	629	
計		7,821	1,622	6,580	5,608	21,631	

単位:ha

● 森林諸施設の管理

歩道の整備及び防火線の手入

水道水源林内には約780キロメートルの歩道が設置されています。これらは森林の現況把握や保育作業の実施、森林火災等の緊急時に必要なもので、歩道の通行を妨げる草刈りや橋の架け替えなどをを行い、機能の維持に努めています。

また、森林火災時の延焼や類焼を防ぐため、民有林に接する主要な尾根などに、約46キロメートルの防火線を設置しています。防火線の機能を維持するため、草木の刈払などを行っています。

歩道



防火線



獣害対策

近年、多摩川上流域において、ニホンジカ等による森林の被害が深刻化しています。水道水源林においても、下草

が食べられてなくなったり、樹皮がはがされて、植栽木が枯れてしまったりするなどの被害が増加しています。その結果、

土砂が流出するなど森林機能の低下が懸念される状況となっています。

そこで、森林の被害調査を行い、被害の大きい地域では、動物が侵入できないよう柵を張る、幹に直接触れないよう樹木にネットを巻くなど、被害の防止や植生の回復のための対策に取り組んでいます。

被害

食害にあったモミ



対策と結果

単木ネット



シカ侵入防止柵

シカ侵入防止柵によって植生が回復した森林 (写真奥)



● 山地災害の予防と復旧

水道水源林では、荒廃が予測される山地や、集落又は車道への落石等が予測される危険箇所を事前に把握し、被災の防止を図っています。また、崩壊地及び荒廃溪流では、えん堤などの構造物を効果的に配置し、森林の再生を図ることで、水源かん養機能等の向上や小河内貯水池への土砂流出を防止しています。

事業を行うに当たっては、自然石や除間伐材等の自然資材の活用など、自然環境に配慮した治山施設を設置しています。

崩壊地の復旧



自然石を活用した荒廃溪流の復旧



● 森林管理基盤の整備

水道水源林の管理や木材の搬出、地元住民の交通確保等を目的とし、12路線、約74キロメートルの林道を管理しています。また、水道水源林は急傾斜地が多いため、作業の効率化や安全対策を図ることを目的に、森林管理単軌道を設置し、管理しています。

林道大ダル線



森林管理単軌道 (通称: 森レール)

6 水源地上における交流・連携

● 多くの人々に親しまれる水源林への取組

1 広施設等の活用

- ・「水源ふれあいのみち」の整備
- ・「水源林ふれあいのウォーク」の開催

水道水源林内に整備されている「水源ふれあいのみち」等を活用し、都民の方に水源地の散策を通して水道水源林の大切さや役割を知っていただく「水源ふれあいのウォーク」を開催しています。

水源ふれあいのウォーク



水源ふれあいのみち

「水源ふれあいのみち」は、登山初心者でも安全に水道水源林を散策できるハイキングコースです。水源ふれあいのみちには、多摩川源流を訪ねる「水干ゾーン」、ブナやミズナラが美しい「柳沢ゾーン」、奥多摩湖の眺望を堪能できる「小河内ゾーン」の三つがあり、気軽に森林に触れ、森林の役割や大切さを知ることができます。また、自然を感じながら歩くことで、リフレッシュ効果も体感できます。

柳沢ゾーン



2 学校教育との連携

- ・水源地学習活動の支援

水道局は、学校教育の場で行われている、飲み水やそれを育む森林についての学習を支援しており、児童・生徒の自然環境保全に対する意識の向上を図るために、学校への講師派遣及び授業用プログラムや教材の提供を行っています。

今後は、水道水源林の現地案内や高校生による奉仕体験活動の受け入れなども行うていく予定です。

小学校での授業



3 除間伐材を利用したPR活動

- ・事業所内装材やベンチへの利用
- ・PRグッズやオリジナル用紙としての活用

人工林を管理する際に発生する除間伐材を、ベンチやグッズとして活用し、木材の有用性をPRしています。

テーブルとベンチ



● 多様な主体との連携による森づくり

1 多摩川水源森林隊

- ・民有林における森林保全活動の実施

多摩川上流域の水源林には、水源林とほぼ同じ面積の民有林が広がっていますが、林業の不況などにより手入れが行き届いていない森林もあります。水道水を安定して供給していくには、民有林も含めて多摩川上流域の森林全体を再生し、豊かな森にしていく必要があります。

そこで、水道局は、平成14年に多摩川水源森林隊を立ち上げ、民有林において多摩川のボランティアの方々と森林保全活動を行っています。

ボランティアによる森林保全活動



水道局は、多摩川上流域で活動している森林ボランティア団体と交流を深め、荒廃した民有林の再生に向けて、種子の採取や広葉樹苗の育成・保育等を支援していただき、数年後に多摩川上流域の民有林に植栽してもらおう「苗木のホームステイ」事業にも取り組んでいます。

3 水道局職員の啓発

水道局の職員が、水道水源林の大切さを理解し、森づくりの大変さを学ぶために、水道水源林内に「研修の森」を設定しました。地道しらすや植栽等を職員が実際に体験し、森林を育てることにより、水源の森に対する理解を深めています。

2 民間の森づくり活動との連携

- ・広葉樹苗の育成・保育の支援
- ・苗木のホームステイ

民間ボランティアによる苗木の育成



・水道局職員による森づくり

研修の森



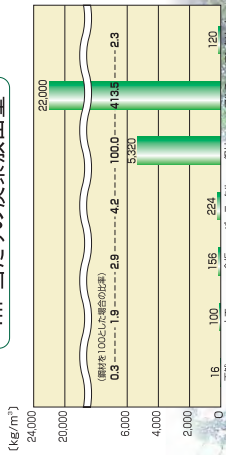
● 地球温暖化防止への貢献

森林は、地球温暖化の原因であると言われている二酸化炭素の吸収源・貯蔵庫としての役割が大きく期待されています。これは、樹木が光合成の際に二酸化炭素を吸収し、有機物として幹や枝等の形で長期間蓄積するためです。

また、木材は、鋼材等の材料に比べ、材料の製造・加工時の二酸化炭素放出量が少ないのが特徴です。

水道水源林では、森林の適切な管理や木材の利用を通じて、地球温暖化防止に貢献していきます。

各種材料製造時における
1m³当たりの炭素放出量



(注) 炭素放出量は、製造段階で発生するCO₂を指し、森林の吸収による削減は含まれていません。

● 除・間伐材の有効利用の推進

人工林の管理作業に伴い発生する除・間伐材を、水道局が実施する各種事業の土木資材や事業所等の内装材及び間伐紙の原料として利用しています。

また、除・間伐材を加工した木質ペレットを燃料とするストーブを水道局の事業所等へ導入することを検討しています。



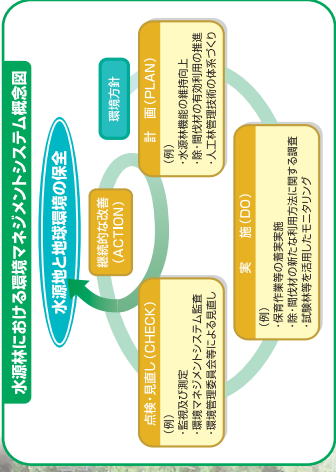
多摩川水源森林隊
事務所の内装材

木質ペレットストーブ

● 環境計画の取組

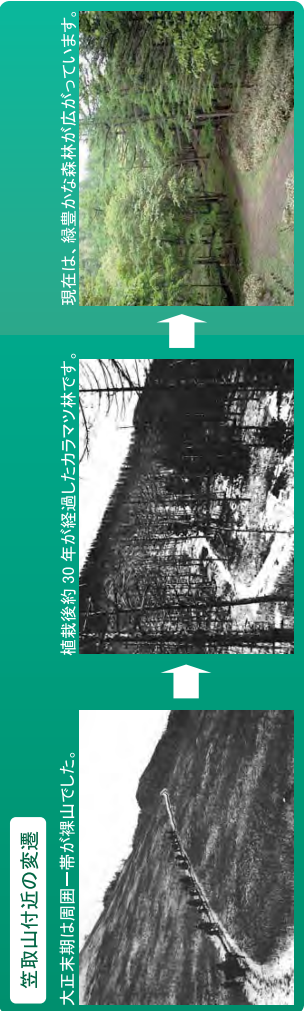
東京都水道局は環境に配慮した水道事業を目指して東京都水道局環境計画を策定し、局を挙げて環境対策に取り組んでいます。

水道水源林でもこの計画に従って環境対策に取り組んでおり、環境マネジメントシステムを継続的に改善して水源地と地球環境の保全を図っています。



年次	西暦	内容	所有者	備考
江戸時代	～1867	多摩川上流域一帯の森林は、おおむね徳川幕府の領地に属し、地域住民は入会権 ^{※1} を持ち、生活に必要な林産物の収穫が許されていた。また、幕府直轄の「御嶽(上)め山」(主に御嶽山)を台所としており、おおむね良好な森林を形成していました。	徳川幕府	承応3年(1654) ・玉川上水完成
明治元～30年	1868～1897	多摩川上流域の山林は「山林原野管民有区分」により官林に編入され、その後官林 ^{※2} に編入されたことで、従来の入会権が縮小を受けることになり、種上流部等では、森林の荒廃が進行しました。	農商務省 山林局等	明治11年(1878) ・東京府荻原山城 ・松之が多摩川源 流(水干)を建設 明治26年(1893) ・神奈川県から三 多摩地域が東京 府に編入
明治41～42年	1908～1909	東京府は水源地の荒廃を憂いて、山梨県日原山、小野村内の約8,140ha及び日原川上流約320haの御料林を譲り受け、府自ら経営を開始しました。また、同時に日原川流域の公・私所有林約5,100haを係官林に編入しました。	東京府	明治30年(1897) ・森林法発布
明治43年	1910	上記の経営者が市議会で議決され、10月に水道林事務所を開設しました。また、府内の御料林約700haを譲り受け、積極的に水源かん養林の経営に着手しました。		
明治45年	1912	山梨県萩原山(現甲州市)の国営国有林 ^{※3} 約5,610haと、既に府有林であった約8,460haを東京府が譲り受けました。	東京府	
大正2～15年	1913～1926	山梨県及び府内の私所有林約610haを買収し、明治44年から開始した府内の公・私所有林との部分林 ^{※4} 約870haを含む、経営面積は約18,250haとなりました。		
昭和8年	1933	日原川上流の私有林約4,780haを買収しました。	昭和18年(1943～)	
昭和25年	1950	旧古里村(御栗多摩郡)の部分林約90haに同村有林約100haを加え、約190haを買収しました。		
昭和42年	1967	小河内ダム建設時に買収したダム副圏林約460haが小河内貯水池地管理事務所から移管され、水道水源林はほぼ現在の形になりました。さらにこの数年の売却や交換等を経て、経営面積は約21,634haになりました。		昭和32年(1957) ・国立公園法は廃 止となり、自然 公園法が成立 ・小河内ダム完成
平成2年	1990	多摩川流域の水源地の管理一元化をはかるため、水道林事務所を水源管理事務所と改称し、村山・山口貯水池及び小河内貯水池とともに、水道水源林を水源施設の一つとして管理することになりました。		
平成13年	2001	水道水源林の管理を開始してから100年を迎えました。		
平成14年	2002	多摩川水源森林隊を設立しました。		
平成18年	2006	第10次水道水源林管理計画を策定しました。		

(注) ※1 入会権(いりあひけん)：農民が燃料等の生活資料を共同で採取できる権利
※2 御料林(ごりょうりん)：皇室で管理していた森林
※3 国営国有林(こんえいゆうりん)：皇室により国に下賜された森林
※4 部分林：私営林が町村有林に地上権を設定し、水道局で管理していた森林(現在はその一部を買収し、大部分は水庫から養料林として管理しています)



笠取山付近の変遷
大正末期は周囲一帯が裸山でした。

植栽後約30年が経過したガラマツ林です。

現在は、緑豊かな森林が広がっています。

4. 木づかいガイドライン 参考資料

トップ>企業情報>CSRへの取り組み>ACORN>act-1 木材利用による森林健全化>木材利用方針

▶ ACORN トップ

▶ 生物多様性を支える森

▼ act-1木材利用による森林の健全化

▶ 木材利用方針

▶ 木材利用サイクル

▶ 国産材利用

▶ 地域材利用

▶ 木材利用製品

▶ 木材の基礎知識

▶ アファンの森

ACORN BLOG

アファンの森から
2012年8月10日

アファンの森研修(2)
2012年7月19日

里帰り
2012年7月18日

一覧へ

ACORN

生物多様性にむけたオカムラのアクション [エイコーン]



ACORN BLOG

木材利用方針

森林生態系の保全や地球温暖化問題が重要な課題となる今、2009年10月に「オカムラグループ 木材利用方針」を策定し、森林資源の持続可能な利用と生物多様性の保全を推進することを明文化しました。オカムラグループは、木材利用方針に基づいた製品開発をするとともに、お客様にそれらの製品を用いたオフィス空間のご提案をしています。



以下の木材を使用しません。

- 1 絶滅危惧種
- 2 道法に伐採・生産・取引された木材
- 3 森林生態系や地域社会に悪影響を与えている木材



以下の木材を利用を広げます。

- 1 信頼のある森林認証を受けた木材(または同等の証明のある木材)
- 2 建築廃材、リサイクル材
- 3 国産材・地産材

具体的な取り組みはCSRレポートをご覧ください。

木材利用の基準となる指標マーク

間伐材利用の普及・推進

間伐や間伐材利用の重要性等をPRし、間伐材を用いた製品を表示するマーク。間伐の推進について知ってもらい普及させること、また間伐材の利用促進と消費者の製品選択に貢献することを目的としています。



間伐材マーク

国産材を使ってCO2を削減

林野庁が進める「木づかい運動」を象徴するマーク。京都議定書で定められた温室効果ガスの削減目標の達成に向けて国産材の利用量を拡大することを目指します。国産材利用の意義を浸透させる普及ツールのひとつです。



木づかいニッポン
木づかい
サイクルマーク



サンキューグリーン
スタイルマーク

[← BACK](#)

[UP *](#)

信頼ある森林認証マークを取得

木材を生産する世界中すべての森林を対象とし、木材の流通や加工のプロセスを認証するFSC®マーク。環境保全の点から見て適切で、社会的な利益にかなない、経済的にも継続可能な形で生産された木材に与えられています。



責任ある森林管理
のマーク

[免責事項](#)

[プライバシーポリシー](#)

[GLOBAL](#)

[サイトマップ](#)

COPYRIGHT©2007-2012 OKAMURA CORPORATION, ALLRIGHTS RESERVED.

オカムラ
株式会社 岡村製作所

6

「平成24年度県下一斉信州木の家住宅見学会」参加企業

番号	地域	団体・会社名	住所	担当者氏名 (敬称省略)	電話番号	FAX番号	メールアドレス	第1回(10.19) 全体会議参加者	第2回(11.13) 全体会議参加者	第3回() 全体会議参加者	実行委員会	備考
1	東信	㈱西沢粘工務店	386-1105 上田市吉田306-13	田中 沙織	0268-26-6500	0268-26-6853	youhouse@jeans.ocn.ne.jp	欠	欠		-	
2	東信	信州カラマツ板倉の会 他	386-2202 上田市真田町本原1415	清水 国寿	0268-72-5078 (090-4700-2695)	0268-72-5078	shimizu-archi@pc9.ueda.ne.jp	欠	欠		-	しみず建築工房 スペースウェアハウス 青木屋
3	東信	美し信州建設(株)	386-0034 上田市中之条1268-1	中嶋 大介	0268-27-6667	0268-27-6672	d-nakai@sinshuu.co.jp	欠	中嶋 大介		-	
4	東信	㈱中住建	385-0021 佐久市長土呂819-2	佐藤 文宏	0267-86-7722	0267-67-1588	sato@tanakaiyuken.co.jp	佐藤 文宏	佐藤 文宏		委員長	
5	東信	木栄ホーム(株)	389-0514 東御市加沢201-5	佐藤 清	0268-64-7511	0268-62-1204	sato@dai3wood.co.jp	欠	依田 育恵		-	
6	南信	㈱ダイワテック	394-0002 岡谷市赤羽3-12-25	和田 保守	0266-22-5231	0266-22-7961	info@daiwa-tech.co.jp	和田 保守	和田 孝幸		-	
7	南信	㈱フォレストコーポレーション	396-0021 伊那市ますみヶ丘7352-1	三澤 かおり	0265-73-8333	0265-73-8061	kaori@forestcorp.jp	欠	欠		-	
8	南信	㈱井坪工務店	399-0004 飯田市上郷黒田693	澤柳 忠司	0265-22-5262	0265-22-5254	yasuragi@itsubo.co.jp	澤柳 忠司	澤柳 忠司		-	
9	中信	全木協一長野県協会	390-1131 松本市今井野房5031	佐野 佳孝	0263-50-3950	0263-50-3950	builders-support@shinshuu-11	佐野 佳孝	佐野 佳孝		〇 会計(副委員長)	
10	中信	㈱奥平工務店	399-0733 塩尻市大門三番町13-2	奥平 矢	0263-52-2510 (090-3564-1901)	0263-53-8550	mail@okuhirakoumuten.com	欠	奥平 矢		-	
11	中信	㈱住まい工房	390-0831 松本市井川城3-7-27	中島 崇伸	0263-28-6351	0263-28-6353	nakai@sumaikobo.com	-	松田 恭子		-	
12	北信	信州OM住まいの研究会	381-0084 長野市若穂東条560-1	村上 友紀	0264-23-2002	0264-23-2223	tom@murakami-kiso.com	欠	村上 友紀		〇 監事	担当: ㈱村上工務店
13	北信	㈱やま秀 田中建設	381-0103 長野市若穂川田531	田中 敬明	026-282-2249	026-282-2985	y-tok@ern.ianis.or.jp	田中 敬明	田中 敬明		-	
14	北信	㈱大賀	388-8014 長野市篠ノ井塩崎6777-1	東方 正道	026-283-3709	026-293-6709	info@taiga-u.com	東方 正道	東方 正道		〇 委員	
15	北信	北信商建(株)	389-1201 上水内郡飯綱町大字芋川1540	奥秋 誉人	026-219-1525	026-219-1560	fb@hokushinhouse.com	欠	奥本 承一		-	
												山田 純央 西 剛

◆流通・販売、認証工場以外の製造工場（B種）

地域名	会社名	〒	住所	TEL	FAX	備考
佐久	(有)伊藤木材	384-2205	佐久市春日2959	0267-53-3125	0267-53-5632	
	(株)吉本	384-0611	南佐久郡佐久穂町平林121	0267-86-4305	0267-86-5544	
	高畑住宅資材(株)	385-0053	佐久市野沢435-2	0267-62-7144	0267-62-7997	
上小	上田第三木材(資)	389-0514	東御市加沢201-5	0268-62-1202	0268-62-1203	
諏訪	中央住材(株)	392-0131	諏訪市湖南112-1	0266-56-1677	0266-56-1678	
	(株)若松	393-0087	諏訪郡下諏訪町4611-92	0266-28-5113	0266-28-3333	
上伊那	澤渡木材(株)	399-4432	伊那市東春近1628	0265-72-3228	0265-73-6285	
	都築木材(株)	396-0011	伊那市伊那部336	0265-72-3116	0265-72-3158	
	丸計渡邊木材(株)	399-4601	上伊那郡箕輪町中箕輪8487	0265-79-2114	0265-79-9616	
下伊那	(株)飯田総合木材センター	395-0807	飯田市鼎切石4367	0265-23-2277	0265-23-2567	
	小澤木材(株)	395-0824	飯田市松尾清水8011	0265-24-1487	0265-23-1487	
	(株)ヤマキチ木材	395-0001	飯田市座光寺5526-1	0265-22-0055	0265-52-6371	
松本	(株)林友	390-0841	松本市渚4-1-1	0263-25-2369	0263-25-8772	
	(株)ランバーテック	399-0033	松本市笹賀7189-2	0263-86-3486	0263-86-3775	
	酒井産業(株)	399-6301	塩尻市贄川木曾長瀬2307-2	0264-34-3323	0264-34-3611	
北安曇	高橋林業(株)	399-8501	北安曇郡松川村5728	0261-62-2140	0261-62-0111	
長野	(株)アスカ木材	388-8008	長野市合戦場3-76	026-293-2593	026-293-5246	
	(株)マルオカ	381-0043	長野市吉田5-25-7	026-243-1218	026-243-1251	
	ナイス(株)長野市場	381-0004	長野市大字大町580-1	026-296-9111	026-296-9602	
	(株)イトーキ東日本支社 長野支店	380-0935	長野市中御所1-24-4 裾花第2ビル	026-228-3288	026-224-1529	
	(株)峯材材木店	387-0006	千曲市大字栗佐760-1	026-272-1182	026-273-3772	
	(株)山二	382-0045	須坂市井上1700番17	026-242-5455	026-242-5411	
北信	(株)大洋	389-2254	飯山市南町24-9	0269-62-4165	0269-62-4166	
	竹原木材(株)	383-0007	中野市竹原1859-4	0269-22-5177	0269-22-5179	
計	24社					

◆設計事務所（C種）

地域名	会社名	〒	住所	TEL	FAX	備考
上伊那	(株)フォレストコーポレーション	396-0021	伊那市ますみヶ丘7352-1	0265-73-8333	0265-73-8061	
	(株)あっとホーム	399-4511	上伊那郡南箕輪村8998-1	0265-73-1323	0265-73-0323	
松本	(株)杉野建築店	390-0847	松本市笹部4-12-8	0263-25-2657	0263-27-2061	
	(有)建築工房 時遊館	399-8101	安曇野市三郷明盛1833-2	0263-76-0140	0263-76-0141	
	(株)住まい工房	390-0831	松本市井川城3-7-27	0263-28-6351	0263-28-6353	
	(有)和建築設計事務所	399-0703	塩尻市広丘高出西原1955-3	0263-51-0318	0263-51-5352	
長野	(有)関建築十まち研究所	380-0871	長野市西長野2-4	026-233-5566	026-233-5567	
	(株)西沢建築研究所	381-2246	長野市丹波島2-13-11	026-285-0437	026-285-0438	
	(株)ダイコク	388-8007	長野市篠ノ井布施高田650番地6	026-292-1346	026-293-5775	
	下崎建築設計事務所	380-0947	長野市平柴660-1	026-214-3077	026-214-3077	
	萌 建築設計工房	380-0947	長野市平柴660-1	026-214-3088	026-214-3088	
北信	(有)山三	383-0013	中野市中野2637-1	0269-22-5415	0269-22-7252	
計	12社					

9 ◆工務店 (D種)

地域名	会社名	〒	住所	TEL	FAX	備考
佐久	(株)青木屋	385-0031	佐久市内山7007	0267-62-1283	0267-62-2630	認証工場、A種会員
	中島木材(株)	385-0007	佐久市新子田1854	0267-67-4038	0267-67-3307	
	(株)田中住建	385-0021	佐久市長土呂819-2	0267-66-7722	0267-67-1588	
上小	美し信州建設(株)	386-0034	上田市中之条1268-1	0268-27-6667	0268-27-6672	
諏訪	(株)くみきハウス	399-0211	諏訪郡富士見町富士見243-23	0266-61-2188	0266-61-2180	
上伊那	(株)フォレストコーポレーション	396-0021	伊那市ますみヶ丘7352-1	0265-73-8333	0265-73-8061	C種会員
	(株)あつとホーム	399-4511	上伊那郡南箕輪村8998-1	0265-73-1323	0265-73-0323	C種会員
下伊那	大蔵建設(株)	395-0077	飯田市丸山町2-6732-13	0265-24-6464	0265-24-6465	
	後藤製材建設(株)	395-0821	飯田市松尾新井1238	0265-53-3377	0265-53-0200	認証工場、A種会員
木曾	南木曾木材産業(株) (南木曾建設(株))	399-5302	木曾郡南木曾町吾妻1187	0264-57-3044	0264-57-2006	認証工場、A種会員
松本	(有)奥平工務店	399-0733	塩尻市大門三番町13-2	0263-52-2510	0263-53-8550	
	(株)小林創建	390-0836	松本市高宮北5-8	0263-26-6260	0263-26-6682	
	(株)杉野建築店	390-0847	松本市笹部4-12-8	0263-25-2657	0263-27-2061	C種会員
	(有)三浦創建	399-6461	塩尻市宗賀3636-4	0263-52-6117	0263-53-4811	
	(有)建築工房 時遊館	399-8101	安曇野市三郷明盛1833-2	0263-76-0140	0263-76-0141	C種会員
	(株)住まい工房	390-0831	松本市井川城3-7-27	0263-28-6351	0263-28-6353	C種会員
長野	(株)大沼建設工業	380-0812	長野市早苗町77-4	026-232-1093	026-243-1985	
	(株)鎌倉材木店	381-0024	長野市南長池39-5	026-221-5375	026-221-5386	認証工場、A種会員
	(株)ダイコク	388-8007	長野市篠ノ井布施高田650番地6	026-292-1346	026-293-5775	C種会員
	坂田木材(株)	388-8018	長野市篠ノ井西寺尾2772-1	026-292-3203	026-292-4119	
	中澤勝一建築(株)	381-1221	長野市松代町東条1697-1	026-278-3763	026-278-3718	
北信	(株)ミハマハウジング	382-0825	上高井郡高山村大字高井4934-1	026-248-6859	026-248-6822	
計	22社					

◆素材生産・販売、森林所有者等 (E種)

地域名	会社名	〒	住所	TEL	FAX	備考
上小	信州上小森林組合	386-1212	上田市富士山2464-226	0268-39-8522	0268-39-8523	
諏訪	細川木材(株)	399-0211	諏訪郡富士見町富士見10709	0266-62-2511	0266-62-2515	
下伊那	飯伊森林組合	395-0033	飯田市常盤町30	0265-22-0604	0265-22-0612	認証工場、A種会員
長野	中部森林管理局	380-8575	長野市栗田715-5	026-236-2681	026-236-2686	
	長野県森林組合連合会	380-8567	長野市岡田町30-16	026-226-2504	026-226-2225	
北信	滝澤産業(有)	389-2302	下高井郡木島平村往郷1860	0269-82-2127	0269-82-3262	
計	6社					

◆準会員

地域名	会社名	〒	住所	TEL	FAX	備考
県外	林ベニヤ産業(株)	541-0041	大阪府大阪市中央区北浜4-4-12	06-6228-1401	06-6228-1400	
	(株)キーテック	136-0082	東京都江東区新木場1-7-22	03-5534-3741	03-5534-3750	
	天龍木材(株)	438-0207	静岡県磐田市宮本350	0538-66-1125	0538-66-4973	
計	3社					

◆特別会員

	会社名	〒	住所	TEL	FAX	備考
	長野県木材協同組合連合会	380-8567	長野市岡田町30-16	026-226-1471	026-228-0580	
	長野県森林組合連合会	380-8567	長野市岡田町30-16	026-226-2504	026-226-2225	
	長野県県産材振興対策協議会	380-8567	長野市岡田町30-16	026-228-5625	026-228-0580	
	(協)長野県信州からまつ工業会	389-0514	東御市加沢201-5 上田第三木材(資)内	0268-62-1202	0268-62-1203	
	長野県集成材工業会	386-0016	上田市大屋267 齋藤木材工業上田営業所	0268-34-6880	0268-34-6870	
	長野県納材協会	390-0841	松本市渚4-1-1 (株)林友内	0263-25-2369	0263-25-8772	
	木曾林業振興事業協同組合	399-5608	木曾郡上松町荻原中島1579-3	0264-52-5555	0264-52-5557	
	南信地区長野県産木材工業会	399-4432	伊那市東春近1604-1 上伊那森林組合内	0265-72-3232	0265-76-3453	
計	8社					

「ぎふの木で家づくりの協力的務店」認定者名簿

(H24.12.1)

地域	認定番号	事業者名	郵便番号	住所	電話	FAX	ホームページアドレス
岐阜	001	篠田建設(株)	500-8152	岐阜市入舟町3丁目32番地の3	058-248-5581	058-248-6600	http://www.shinodakensetsu.jp
	002	村瀬建設(株)	501-3107	岐阜市加野4-27-18	058-243-2295	058-243-2312	http://www.murase-kodawari.com/
	003	野々村建設(株)	501-2256	山県市青波230番地2	0581-52-2019	0581-51-2090	http://www.sakan-art.com/
	004	夙建設(株)	501-3133	岐阜市芥見南山3-5-31	058-243-2173	058-244-2026	http://www.ohtori.net/
	005	(有)愛広工務店	501-8265	羽島市小籠町川口前383-1	058-392-3997	058-322-7888	
	006	(株)スカイホーム	500-8289	岐阜市須賀4丁目1番20号	058-268-2011	058-268-4788	http://kk-skyhome.com/
	007	文殊住建(株)	501-1203	本巣市文殊1234番地1	0581-34-2707	0581-34-3080	http://www.monjuyuken.com/info.html
	008	(株)鷺見製材	500-8281	岐阜市東嶽3-59	058-278-7783	058-273-2274	http://www.hidamari-home.jp/
	009	(株)登昭建設	500-8289	岐阜市須賀4-2-2	058-274-0302	058-274-0305	http://www.altonukumorinoie.net
	010	田中博建築	501-2331	山県市葛原4988-3	0581-55-2349	0581-55-3368	
	011	宮川建設	501-2331	山県市葛原3834	0581-55-2568	0581-55-2645	
	012	タグチホーム(株)	504-0854	各務原市藤原野口町2-15-4	058-382-8371	058-371-2346	http://www.taguchihome.com
	013	江川建築(有)	501-2259	山県市岩佐159-2	0581-52-1751	0581-52-1271	http://www7.ocn.ne.jp/~casa-net/eraken/
	014	安田建設工業(株)	500-8382	岐阜市葦田東1丁目5番29号	058-273-3173	058-275-2087	http://gifu-yasuda.co.jp
	015	TimberLife(株)	502-0911	岐阜市北島1丁目3-11	050-3531-8911	058-297-3501	www.timberlife.jp
	016	本庄工業(株)	500-8287	岐阜市北霧2丁目16番	058-271-6527	058-271-6817	http://www.honio-woodream.com/
西濃	001	浅野木材(株)	503-0854	大垣市築港町2-67	0584-89-4247	0584-89-7085	http://www.asano-mokuzai.jp/
	002	丸平建設(株)	501-0501	揖斐郡大野町大字稲富238番地の8	0585-34-2371	0585-34-2574	http://www.maruhei-home.com
	003	(株)住いず	501-0501	揖斐郡大野町大字稲富239番地の1	0585-35-2082	0585-35-2097	
	004	内田木材工業	501-0635	揖斐郡揖斐川町白樫666-5	0585-22-1171	0585-22-1220	http://www.chuokai-gifu.or.jp/lumber/kumiai/bage.html
	005	(株)ヤマジョウ建設	501-2901	関市板取1546-1	0581-57-2326	0581-57-6770	http://www.yamaio-cons.co.jp
	006	(株)大和工務店	501-3944	関市山田881-4	0575-28-2361	0575-28-4977	http://www.daiwakoumuren.co.jp
	007	(株)西村工建	501-3781	美濃市片知2716番地	0575-34-0114	0575-34-0595	http://www.kuwahara-mokuzai.jp/
	008	桑原木材工業(株)	501-2802	関市洞戸通元寺33番地	0581-58-2181	0581-58-2137	http://www.kuwahara-mokuzai.jp/
	009	(株)澤建築	501-4509	郡上市和良町沢771番地	0575-77-2425	0575-77-2302	http://www.sawakenchikubiz-web.jp
	010	澤崎建設(株)	501-5116	郡上市白鳥町西819-1	0575-84-1221	0575-84-1817	http://www.sawakenchikubiz-web.jp
	011	(株)高橋建設	501-5121	郡上市白鳥町白鳥21-2	0575-82-2282	0575-82-4718	http://www.sawakenchikubiz-web.jp
	郡上	002	(株)金山住建	501-5114	郡上市白鳥町那留1527番地8	0575-82-2614	0575-82-5275
003		丸島建設(株)	501-5116	郡上市白鳥町中西365番地1	0575-84-1211	0575-84-1212	http://www.maruso-k-kk.com/pc/
004		(株)三島建築	501-5103	郡上市白鳥町二日町1253	0575-82-2735	0575-82-5213	http://mishimakenchiku.blog.fc2.com/
005		(有)児建装	501-4105	郡上市美並町三戸1671-2	0575-79-2906	0575-79-3929	http://marueikensetsu.com/
006		(株)丸栄建設	501-5126	郡上市白鳥町向小駄良629番地の3	0575-82-4385	0575-82-5024	http://www.maruchouhome.com/
007		(株)丸長ホーム	509-1113	加茂郡白川町三川11547	0574-72-1344	0574-72-2330	http://www.m-sanwa.jp/
008		三和木材(株)	505-0046	美濃加茂市西町3丁目146番地	0574-26-9480	0574-25-6661	http://www.simwanet.co.jp/
009		(株)新和建設	505-0027	美濃加茂市本郷町9-15-60	0574-25-6631	0574-77-2172	http://www.minowa.biz/
010		(株)ミノワ	509-1431	加茂郡白川町黒川2482-3	0574-77-1255	0574-73-1122	http://www.minowaki.co.jp
011		(株)三和木	509-1111	加茂郡白川町切井1218-10(本社)	0574-73-1121	0574-73-1122	http://www.tokai-kani.co.jp
012		東海建設(株)	507-0007	多治摩市小笠原町西1-923三和木スカビル(東海本部)	0572-21-8700	0572-21-6262	http://www.tokai-kani.co.jp
可茂		001	どうかいけんせつ	509-0207	可児市今渡1155-1	0574-63-5551	0574-63-2250
	002	(株)弘栄工務店	509-0203	可児市下惠土6026	0574-63-3939	0574-63-3830	http://www.kouei-net.jp
	003	下之保木材(有)	505-0032	美濃加茂市田島町2丁目1-17	0574-28-9577	0574-28-9682	http://www.simonoh.com
	004	(有)栄進工業	509-0511	加茂郡七宗町神淵3606	0574-48-1221	0574-46-1183	http://www.kame-house.co.jp
	005	長瀬産業(株)	509-1302	加茂郡東白川村神土2086	0574-78-2041	0574-78-2421	http://www.nagatoro-sanryu.co.jp
	006	(株)カネダイ	509-1111	加茂郡白川町切井1116番地の1	0574-73-1503	0574-73-1687	http://www.kanedai.jp
	007	ますやけんせつ	509-1113	加茂郡白川町三川12823番地	0574-72-2218	0574-72-2718	www.masuyakensetsu.jp

10

「ぎふの木で家づくり協力工務店」認定者名簿

地域	認定番号	認定番号	事業者名	郵便番号	住所	電話	FAX	ウェブサイト
恵那	013	(株)丸信住宅産業	まるしんじゅつたくさんぎょう	509-0403	加茂郡七宗町中麻生1291の1	0574-48-1137	0574-48-1351	http://www.marushin-house.co.jp
	001	(株)大野工業	おおのこうぎ	509-7122	恵那市武並町竹折1288-1	0573-28-2328	0573-28-2023	http://www.oonoko-ki.com
	002	(株)岡山工務店	おかやまこうむてん	508-0203	中津川市福岡685-1	0573-72-2100	0573-72-2140	http://www.ionus-home.jp
	003	(株)田口建設	たぐちけんせつ	508-0351	中津川市付知町9595-1	0573-82-2497	0573-82-4589	http://www.tanouchikensetu.com
	004	(株)中島工務店	なかしまこうむてん	508-0421	中津川市加子母1005	0573-79-3131	0573-79-3214	http://www.npssg.co.jp
	005	(有)田中建築	たなかけんちく	509-7401	恵那市岩村町飯羽間2275	0573-43-2046	0573-43-2109	http://www.iw.vrtc.net/~tanaka.kentiku/
	006	(株)龍林	たてばやし	509-7201	恵那市大井町2087番地の521	0573-26-3030	0573-26-3470	http://www.tatebayashi-group.co.jp
	007	(株)熊澤建築事務所	くまざわけんちくしむしょ	508-0421	中津川市加子母3824番地	0587-79-2875	0573-79-2035	http://www.kumaken.info
	008	(有)原建築	はらけんちく	508-0351	中津川市付知町11372番地	0573-82-3632	0573-82-4306	http://www.harushou.com/
	009	征矢建築事務所	せいやけんちくじむしょ	508-0004	中津川市付知町4944番地の2の1	0573-65-3720	0573-65-3720	http://www.iw.vrtc.net/~tanaka.kentiku/
	010	(株)伊藤木材店	いとうもくざいてん	508-0351	中津川市付知町4944番地の2の1	0573-82-2266	0573-82-4434	http://www.ito-wood.jp/
	001	(株)富久匠	ふくじょう	509-2508	下呂市萩原町尾崎1767番地4	0576-55-0852	0576-55-0852	http://www.ito-wood.jp/
	002	金子建築(株)	かねこけんちく	509-2518	下呂市萩原町上呂1278	0576-55-0502	0576-55-0300	http://www.kanekokentiku.com/
	003	(株)飛騨工務店	ひでこうむてん	509-2506	下呂市萩原町羽根404	0576-52-2320	0576-52-3735	http://www.hidakourumuten.co.jp
	004	山喜建設(株)	やまきけんせつ	509-2133	下呂市和佐2447	0576-28-2321	0576-28-2663	http://www.yamakikensetu.com/
	005	(有)春昇建築	はるしよけんちく	509-2518	下呂市萩原町上呂340番地	0575-55-0166	0576-55-0164	http://www.harushou.com/
	006	(有)都竹建築	つづけんちく	509-2519	下呂市萩原町奥田洞769	0576-55-0857	0576-55-0867	http://www.taiwahome.jp
007	(有)二村建築	ふたむらけんちく	509-2604	下呂市馬瀬中切1159-4番地	0576-47-2537	0576-47-2538		
008	(有)山和住宅	さんわけんちく	509-3112	下呂市小坂町大洞1019番地	0576-62-3839	0576-62-3857		
001	(株)溝口建築	みぞぐちけんちく	506-1143	飛騨市神岡町小堂766-1	0578-82-5753	0578-82-5828	http://www.nizoken.co.jp	
002	(株)匠和組	しよわぐみ	509-4233	飛騨市古川町末広町1番15号	0577-73-2222	0577-73-2232	http://www.shouwagumi.co.jp/	
003	(株)クリエートハウス21	くりえーとはうす21	506-0825	高山市石浦町2丁目95番地	0577-32-7963	0577-32-8597	www.k21sc.com	
004	笠原木材(株)	かさばらもくざい	509-3206	高山市久々野町山梨69-1	0577-52-2525	0577-52-3058	http://www.kasahara-net.jp	
005	正建設	せいけんけんせつ	509-3505	高山市一之宮町1141の3	0577-53-2229	0577-53-2278	http://www.seiken-kensetu.com/pe/	
006	(株)塚部建築	さかべけんちく	509-4211	飛騨市古川町大江1238	0577-73-3602	0577-73-3647	http://www.skhome-hida.com/	
007	(株)井上工務店	いのうえこうむてん	506-0818	高山市江名子町2715-11	0577-33-0715	0577-33-0144	http://inouekourumuten.net	
008	下見建築	しもみけんちく	509-3505	高山市一之宮町502番地2	0577-53-2025	0577-53-2025		
009	(有)中村建築	なかむらけんちく	506-1131	飛騨市神岡町麻生野23番地1	0578-82-1566	0578-82-5338	http://www6.ocn.ne.jp/~aseva23/	
010	(株)洞口工務店	ほらくちこうむてん	506-2134	高山市丹生川町桐山671	0577-78-1555	0577-78-1996	http://www.horaguchi.com	
011	サトウ建築社	さとうけんちくしや	506-0001	高山市冬頭町873-7	090-2342-1694	0577-36-5129		
012	タマヤシC企画	たまやえるしー	509-4263	飛騨市古川町上野674-1	0577-73-4883	0577-73-6822	www.tamayaic.com	
013	(株)丸茂	まるも	509-4211	飛騨市古川町大江3092	0577-73-2745	0577-73-5802	www.marumo-hida.co.jp/	
014	(株)古橋組	ふるはしがみ	506-0007	高山市総和町3丁目115番地	0577-32-1195	0577-32-1194	http://www1.ocn.ne.jp/~furuha/aisetu.html	
015	永家工業(株)	ながやこうぎょう	506-0808	高山市松本町269番地	0577-33-2468	0577-33-9999	http://www.nagaya-kougyou.co.jp	
016	中道建築開発(株)	なかみちけんちくかいぱつ	506-0032	高山市千島町1029-12	0577-33-0673	0577-32-8282	http://www.nakamichi-kk.com/	
017	(有)エッチアンドシーホーム	えっちあんどしーほーむ	506-0021	高山市名田町4-70	0577-37-7868	0577-37-7867	http://www.hande-home.jp	

(H24.12.1)



インターネットでの情報提供	
提供予定	11月8日(木)

平成24年11月7日(水)		県政記者クラブ配布資料	
担当課	担当	担当者	電話番号
—	ぎふの木の住まい協議会 (事務局：榎鷲見製材)	石橋明世 牧村綾子	058-278-7783
県産材流通課	県産材需要拡大係	二木次郎	直通058-272-8483 内線3013

「ぎふの木の住まい協議会」による「住まいづくりセミナー」の開催について

県では、品質・性能が確かな「ぎふ性能表示材」の利用による安全・安心な「ぎふの木の家」の建設を推奨しています。

本年2月には、「ぎふ性能表示材」を積極的に利用し良質な県産材住宅の建設促進を目指す地域工務店が集まり、「ぎふの木の住まい協議会」が設立されたところです。今回その活動の一環として、下記のとおり、一般消費者を対象とした住宅セミナーを開催することとなりましたのでお知らせします。

記

- 開催日時
○平成24年11月18日(日) 13時30分～15時30分
- 場 所
○「じゅうろくプラザ 小会議室2」 住所：岐阜市橋本町1丁目10番地11
- 内 容
【第1部】
○講演：「プロに学ぼう！家づくりのためのインテリア収納計画」
○講師：サン住宅企画室 代表 宮田直子
【第2部】
○パネルディスカッション：テーマ「地域材にこだわる木の家づくり」
○パネリスト
・サン住宅企画室 代表 宮田直子
・ぎふの木の住まい協議会 会長 鷲見隆夫
・岐阜県林政部県産材流通課 県産材需要拡大係長 栗山淳
○コーディネーター
・笠原木材(株)代表 山田貴敏
- 募集人数
○一般消費者50名(事前申し込みの必要あり。参加申込書は別添ちらし参照。)
*申込み方法：住所、氏名、年齢、参加人数、職業、電話番号又はメールアドレスを記入のうえ、「info@gifusuma.com」又はFAX「058-273-2274」へ。先着順。(定員になり次第締め切り)。

ぎふの木の住まい協議会

○平成24年2月16日設立。「ぎふの木で家づくり協力工務店」により構成(協議会への入会は各工務店の任意)。平成24年10月末現在12社加盟。

○設立目的：「ぎふ性能表示材」を使用した良質な木造住宅の提供等

○活動内容：設計講座、マーケティング講座、住宅セミナーの共同開催等の実施

ぎふの木で家づくり協力工務店

○県補助事業「ぎふの木で家づくり支援事業」の申請実績があり希望する工務店を対象に県が認定。平成24年10月末現在81社認定済。

ぎふ性能表示材

○JAS制度に準じ県が定めた含水率、曲げ強さ、寸法等の基準をクリアした柱、梁等の岐阜県産構造材。

ぎふの木で家づくり支援事業

○「ぎふ性能表示材」を一定量以上使用して建築した住宅の施主に対し1棟あたり20万円を補助。

南信州材（根羽スギ等）復興住宅（コンパクト住宅）のコンセプト（案）

項 目	内 容																								
復興住宅（コンパクト住宅）の必要性	<p>本年度、3月に発生した東日本大震災において、各東北被災県の地域材による復興住宅の供給はほとんど実現できなかった。その要因として、</p> <p>① 被災家屋が多数発生したため、速やかに多数の住宅施工が要求されたこと</p> <p>② 復興住宅の性格上、低価格・施工効率の高い住宅が要求されたこと</p> <p>③ 事前にこうしたコンセプト住宅が存在しないことから、対応が不可能であったこと</p> <p>④ コンセプトがあったとしても、短い時間で川上から川下まで大量に住宅を供給できる工務店等の連携システムがなかったこと等が考えられる。</p> <p>そこで下記のとおり今後、東海沖地震等の発生により震災被害が予想される南信州等震災復興地域において、震災の発生する事前の早期の段階で、こうした震災の発生時に対応できる地域材を活用した復興モデル住宅と、平常時には住宅として活用する低価格コンパクト住宅の提案をするものである。</p> <p>また、当モデル住宅を、震災復興地域を含めた広範囲に広く普及するため、県外消費地の展示会に出展し、県外地域の企業への周知や工務店等との連携を図るものである。</p>																								
対象者範囲	長野県・愛知県等矢作川流域																								
対象者	長野県民・矢作川流域住民・企業																								
対象者の性格	震災が予想される地域の住民で事前に復興住宅を確保しておきたい方、低価格でコンパクトな住宅が必要な方、企業等のCSR活動に使用するため活動拠点施設が必要な方																								
住宅のコンセプト	南信州の木等自然素材活用、低価格、コンパクト（2DK）、耐震機能、環境負荷低減に配慮、活動拠点利用、復興住宅利用																								
設定価格	上限 800 万程度（村内は根羽村田島地区に建築予定、安城市・アイシングループへの将来的な設置も検討）																								
利用材	南信州材、根羽スギ																								
環境負荷低減配慮	国産材利用・ウッドマイレージ・炭素固定																								
事業実施主体	根羽村																								
活用事業	平成 25 年度 元気づくり支援金事業・林業再生推進活動事業																								
事業内容	<table border="0"> <tr> <td>① 低コスト住宅試作</td> <td>8,000 千円</td> <td>元気づくり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 設計委託料</td> <td>400 千円</td> <td>元気づくり</td> <td>小計 8,400 千円</td> </tr> <tr> <td>③ 展示会出展費</td> <td>815 千円</td> <td>再生推進</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④ 展示原材料費</td> <td>400 千円</td> <td>再生推進</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤ 展示パネル</td> <td>200 千円</td> <td>再生推進</td> <td>小計 1,415 千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9,815 千円</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	① 低コスト住宅試作	8,000 千円	元気づくり		② 設計委託料	400 千円	元気づくり	小計 8,400 千円	③ 展示会出展費	815 千円	再生推進		④ 展示原材料費	400 千円	再生推進		⑤ 展示パネル	200 千円	再生推進	小計 1,415 千円	計	9,815 千円		
① 低コスト住宅試作	8,000 千円	元気づくり																							
② 設計委託料	400 千円	元気づくり	小計 8,400 千円																						
③ 展示会出展費	815 千円	再生推進																							
④ 展示原材料費	400 千円	再生推進																							
⑤ 展示パネル	200 千円	再生推進	小計 1,415 千円																						
計	9,815 千円																								

「木でつながる」東濃ひのきのまちから

岐阜県白川町長 今井良博



平成 23 年 5 月 11 日、私は岩手県住田町にいました。数年前から、林業、林材業の先進地である住田町とは交流がありました。その日、多田町長の英断により建築された 100 戸の「木造仮設住宅」の入居が始まった日でした。戦後最大の東日本大震災が発生してから、わずか 2 カ月後のことでした。

住田町は海沿いの陸前高田市や大船渡市の内陸にある町で、飲料水の供給、自衛隊・警察の基地、そして木造仮設住宅等と、まさに後方支援に最大の力を発揮されていました。その時、白川町から 20 名のボランティア隊を派遣し、陸前高田市での作業を 1 週間続けていましたが、その宿泊基地に提供いただいたのも、住田町庁舎の一角で、野宿などせず元気にボランティア作業をすることができました。東海・東南海トラフ大地震が予測されています。いつ起きるか判りませんし、白川町における地震災害はどの程度かも判りません。しかし、食糧の備蓄や飲料水には困らない町であり、町内のインフラ復旧ができれば、できる限り速やかに後方支援活動をしなければと考えております。

その一つが「木造仮設住宅」です。鉄骨住宅にはない、木のぬくもり、あたたかみの中で、大災害にあった人々が生活できる木造仮設住宅の建築ノウハウを、町内の建築業者が共有し、いざという時には、総力をあげて支援できるシステムを構築するため「研究会」を発足してもらい、モデルハウスとして建築しました。平成 24 年度にも、もう 1 棟建築を予定しております。この施設は、希望される皆様に仮設住宅宿泊体験をしていただける設備を備えておりますので、ご利用をお待ちしております。また、仮設住宅の用途が終了した時は、移築して再利用できることや、最終的には、ほとんどが木であり、バイオマス燃料として利用もできます。(仮設住宅ゴミにならない)

東日本大震災は、日本にとって大きな試練であります。しかし、今一度自分たちに何ができるのか考えさせられる大事件であったと言えます。次のモデルハウスは、利用者の声も聞きながら、もっと快適な「木造仮設住宅」を建築してまいります。多くの皆様のご利用をお願いします。

木にこだわった“癒し”の住まいー 木づなプロジェクト研究会

会長 杉山裕美



地元の東濃ひのきと杉を活用した木造仮設住宅「木づな」プロジェクトがスタートして一年が経過しました。全町を挙げて取り組んできましたが、このほど試作第一号が完成し、美濃白川「クオーレふれあいの里」で常設のコテージとして一般公開されました。9 坪のコンパクトな平屋建ての住宅ですが、「木」にこだわった空間は、十分な「癒し」を住まう人にもたらししてくれることでしょう。また、仮設住宅の役目を終えた後も、移築や部材の再利用が可能で、環境に配慮した構造となっております。今後は、一般住宅への転用を実証し、ソフト・ハードの両面から供給体制を整備し、広く社会に認知していただけるよう多方面へ向けた告知活動をしてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

木造住宅「木づな」ができるまで

<p>第一回会議 (研究会発足)</p>	<p>内装工事</p>	<p>建築工事中</p>
<p>壁パネル試作 (研究)</p>	<p>完成</p>	<p>建築工事中</p>
<p>第五回会議 (基本コンセプト決定)</p>	<p>壁パネル製作開始</p>	<p>クオーレの里で 建築工事が始まる</p>

14

『木づな』プロジェクトの基本的な考え方

東濃ひのきと白川の家木づなプロジェクト研究会 アドバイザー 安江 雅平

東日本大震災においては関係各位のご尽力により、6千戸の木造仮設住宅が建設され、地域の資源と人材を活用し、入居者からも高い評価を受けています。緊急時の短時間での対応でもあり、一連の建設の過程で資材確保・建設体制等さまざまな課題も見えてきました。さらに、今後の仮設住宅の再利用や廃棄処理方法が、木造仮設住宅の評価を左右するものと思われれます。

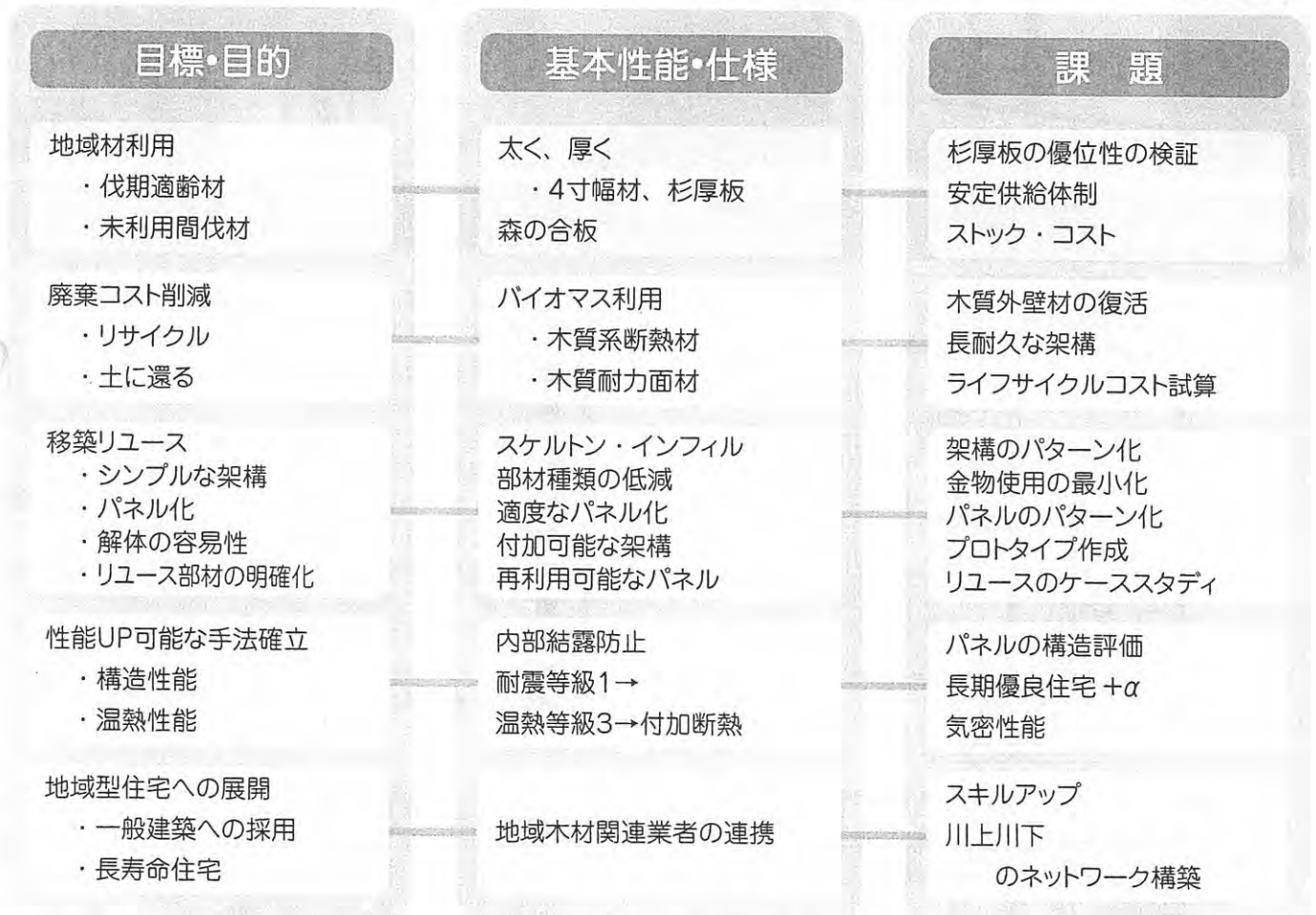
このプロジェクトは仮設住宅の提案にとどまらず、復興住宅等への移築転用やその他の用途への転用、さらに長寿命な木造建築を念頭にした、地域の資源を地域の技術と連携で供給可能な体制づくりをめざしています。

具体的には、

1. 地域材（特に未利用間伐材）を使用した、低コストでの安定供給
2. 地域の技術・設備で製作可能なパネルの開発
3. 多彩な移築再利用に対し、高い可変性と対応力のある工法
4. 再利用の際、構造・断熱性能をグレードアップ可能な工法
5. 川上と川下が連携した地域型住宅の展開

を目標としています。

プロジェクトの全体スキル

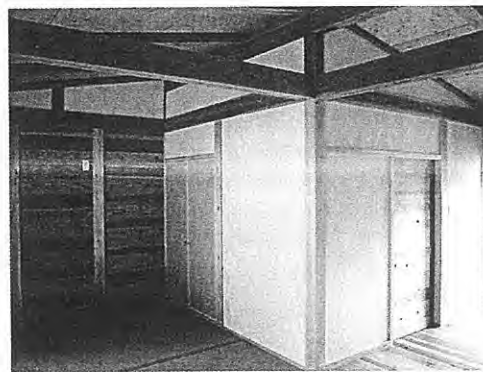
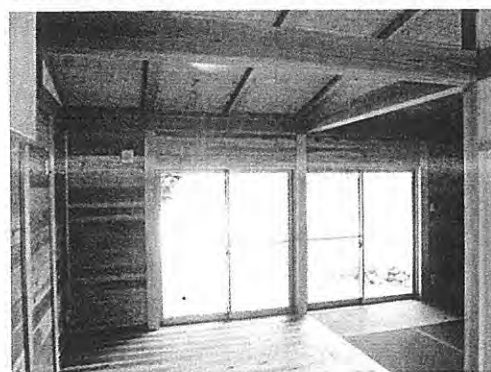
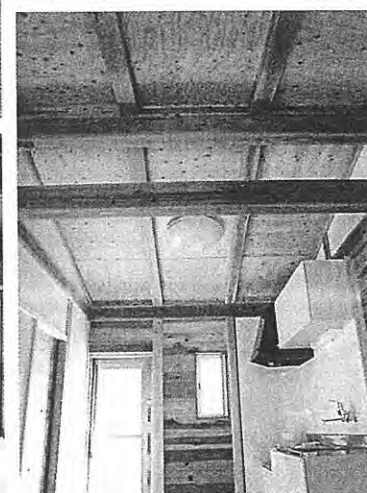


このプロジェクトに終わりはなさそうです。木の優位性を最大限活用した、『木でつながる』ネットワークづくりに努力していきますので、関係各位のご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

15

木造応急仮設住宅モデル

地域材によるパネル工法の技術開発→
移築再利用可能→地域型住宅づくりへ展開

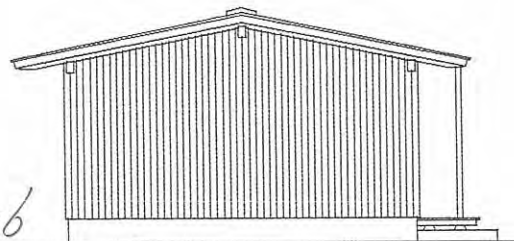
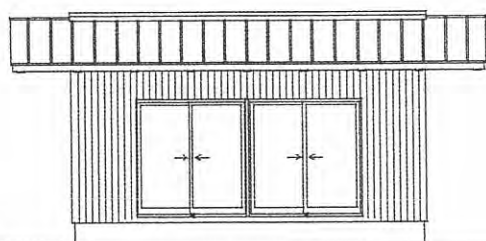


建物概要



建築場所：美濃白川クオーレふれあいの里
建築費：396万円

- 構造規模：木造軸組工法平屋建
- 延床面積：29.81㎡
- 設計期間：2011年8月～2012年1月
- 施工期間：2012年2月～2012年3月
- 屋根：0.35mmカルバリウム鋼板たてひら葺
- 外壁：0.35mmガルバリウム鋼板角波張
- 外部建具：住宅用アルミサッシ（ペアガラス仕様）
- 床：30mm杉フローリング、一部タタミ
- 壁：30mm杉板パネル、一部しっくい
- 天井：ひのき合板パネル
- 断熱材：50mmウッドファイバー



地域材によるパネル工法

地域材（東濃桧・長良杉・森の合板）活用
地域の技術・加工設備で製作可能な工法



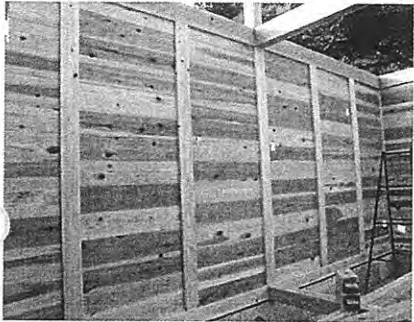
30mm杉板選別敷き並べ



ひのき合板裏打ち



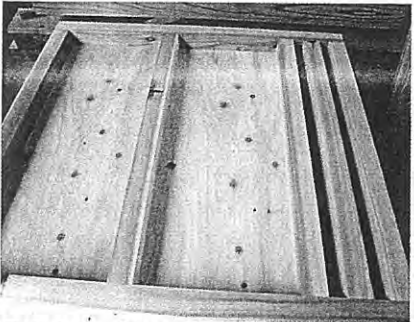
壁パネル建込



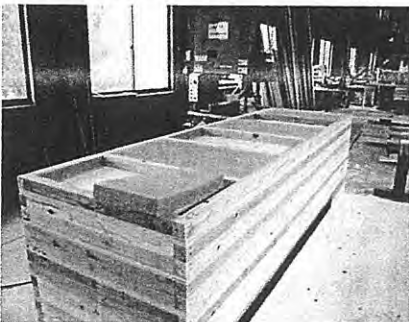
壁パネル建込完了



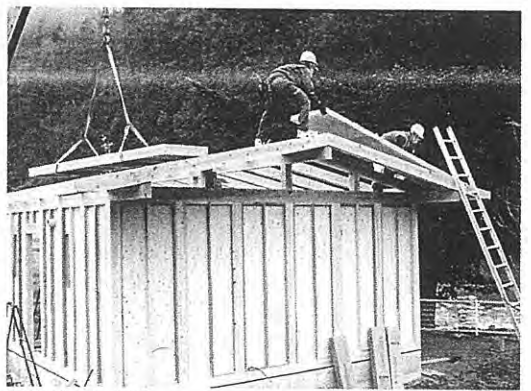
木質断熱材敷込



屋根パネル（ひのき合板）加工



木質断熱材カット



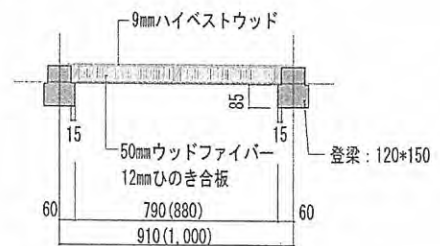
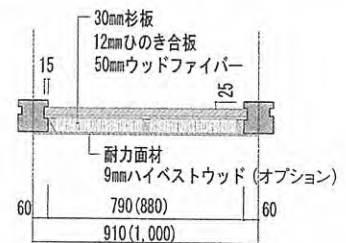
屋根パネル据付



木質断熱材敷込



通気タル木



コンセプト

1. 地域材利用

地域材（東濃桧・長良杉・森の合板）、特に未利用間伐材を活用し、低コストでの安定供給をはかる。

2. 地域の技術・加工設備で製作可能な合理化工法

特殊な工法ではなく、地域の職人の技術・加工機械で対応できる適度なパネル化を開発し、合理化をはかる。

3. 多彩な移築再利用に対応

間取り変更、増設（付加・組込・2階化等）・集合（連結・組合せ）に対し、高い対応性のある工法をめざす。

4. 再利用の際、性能UP可能な工法

断熱材・耐力要素を容易に付加でき、再利用時には長期優良住宅仕様以上の性能が発揮できる仕様を提供する。

5. 一般住宅建築に展開可能な工法

通常の住宅建築に採用可能な工法とし、地域型住宅への展開をめざす。

17

月刊杉 WEB版

01



バックナンバー

今月号目次

月刊杉情報

STAFF

LINKS

ご感想

連載

杉ツール100選 第1回「タコスギ」「イカスギ」

構成/南雲勝志

ツールというシンプルな形を通して、杉の家具材としての可能性を探る。目標100点。

杉の家具はなかなか簡単ではない。まず家具材料としては強度も弱く、硬度もないからだ。特に脚物とよばれるイスやテーブルは、とりわけ接合部に強度や精度が求められるため、一般的にはナラやブナといった広葉樹系の堅木とよばれる材料にかなわない。また天板としても柔らかく傷が付きやすい。地場産杉材活用という謳い文句で学童家具等が各地で試みられているが、どうしても重く、デザインもオーバーになりがちである。堅木を使った家具と同じ作り方をしているのはどうしても無理が生ずるのである。

しかし、可能性がないわけではない。杉ならではの柔らかい材料の使い方や、傷は付いても簡単にはへこたれない存在を表現する仕方だってある。実際に昔のものでは、ちょっとした踏み台や腰掛けなど美しいカタチも存在する。つまりどこかで堅気ではないやぐざな要素が必要なのかも知れない。杉には杉のカタチがあるわけだ。杉パワーを後方支援する意味で魅力的な杉家具の存在は不可欠である。

そんなわけでこのコーナーでは、形態をあえてツールに絞り、単純だが魅力的な杉の家具の可能性を紹介していきたいと思う。とりあえず100選と題し、100のデザインの紹介を目標に、ある程度ストックが出来たところで、スギダラ家(スギダラ家奮闘記を参照)で展示(販売)も考えている。

トップバッターはスギダラ本部デザイン部長若杉浩一さんの「タコスギ」「イカスギ」。命名もさることながら、どこか一風変わった、それでいて許せる、そんなデザインを提供する若杉さんにそのデザインプロセスと、そこに詰め込んだメッセージを披露していただく。

*このコーナーでは、自薦他薦を問わず、杉ツールのデザインを常時受け付けています。たくさんのお寄せをお待ちしています。

●くなくも・かつし)デザイナー
ナグモデザイン事務所代表。新潟県六日町生まれ。家具や景観プロダクトを中心に活動。最近は一とやまちづくりを通じたデザインに奮闘。著書『デザイン図鑑+ナグモ/ガタリ』(ラトルズ)など。日本全国スギダラ倶楽部 本部



廻船問屋の二階にひっそりと置かれている杉家具。
日向市美々津

「タコスギ」「イカスギ」について

文・写真/若杉浩一

南雲さんとは、すいぶん杉だらけの家具を作ってきた。大杉、杉太、長杉太、高杉太、重杉太、杉平……等。だが、よく考えてみるとテーブルと一緒に使うツールを作っていなかった。スギダラ家具をいろいろ他のツールと合わせてみたがやはり少しニュアンスが違うのである。

そこでツールが欲しいと思っていたところ、南雲さんも作ろうという。「どうせなら100の杉ツールを作ろう、そして杉のデザインをみんなと楽しもう」というのだ。そりゃ面白い、やろう。即決である。いつもこんな調子でスギ決まってしまう。

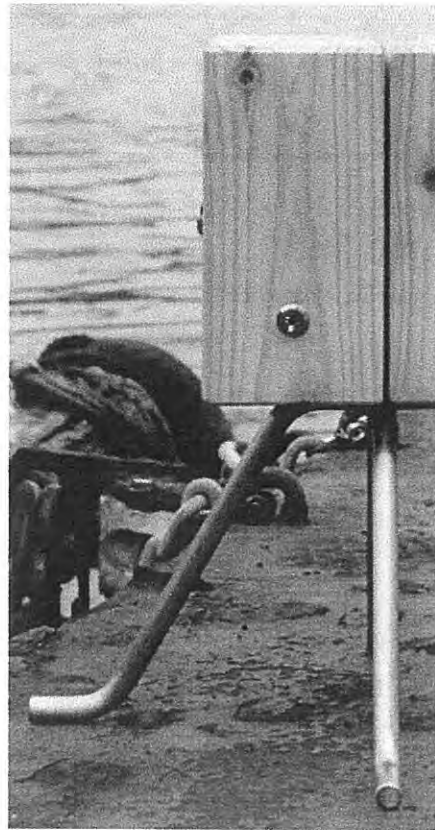
ところが、いざやってみると(お互いにデザインすることとなったのだが)それからは結構大変。いままで杉の家具は、南雲さんのお手伝いはしたものの、自分ではデザインを控えてきた。なんでか? そりゃ杉太など一連のあれだけすごいデザインをやられてしまったら、そうそう回りは出来るものではない。ねえ皆さん!

だけど、皆でデザインを楽しむにはそんな事は言っていられない。南雲さんもデザインしましたが、とりあえずスタートを切らせてもらいます。皆さんどんどん参加して下さいね。そしてスギダラ家で杉ツール100展やりましょう!

さて「タコスギ」「イカスギ」です。100ミリ角の角材を簡単な金物でつないで終わりにしてみました。脚端具も付けるのをやめたらなんだかタコやイカのように見えるもので、このような名前になりました。南雲さんのお嬢さ

18

んは「タコは良いけど、イカは目が4つもあるからだめだね～」と厳しい!!
やはり目は2つですよね～。





係船ロープに絡まりながら潮見に打ち上げられたタコスギ(左)、イカスギ(右)

この記事の感想を書く



Copyright(C) 2005 GEKKAN SUGI all rights reserved



バックナンバー

今月号目次

月刊杉情報

STAFF

LINKS

ご感想

連載

杉ツール100選 第2回「杉コロ」

構成/南雲勝志

ツールというシンプルな形を通して、杉の家具材としての可能性を探る。目標100点。

スギツール100選第2回目に登場いただくのは、狩野新さん。デザインは「杉コロ」。

狩野さんと初めて会ったのは2003年10月。宮崎県日向市で日向木の芽会という地元の木工組合が主催したコンペに審査員として参加した時だ。そのコンペは「ステーションファニチャー」というテーマで、2006年に完成する内藤廣さん設計の日向駅舎で使う家具を公募したものだった。狩野さんはそこで、見事グランプリを受賞した。

狩野さんのデザインの印象は繊細で綿密。非常に細かいディテールを使い、それをあえて杉でつくることで、一般的に大雑把な印象を与えがちな杉ファニチャーの印象を覆したものだ。加えて抜群に座り心地がいい。審査前市民のみなさんに一般開放して座ってもらっていたのだが、その時もとても人気が高かった。ほとんど異論なくグランプリを受賞した。

一点だけ気になるところがあった。「この座のカーブは細島の海の波をイメージしたものです。」とプレゼンで言っていたので、「日向に来たのはいつですか?」と訪ねたら、「すみません、日向は実は初めてです。」と素直に認めた。実は細島は岩が多く、ボクには綺麗な波という印象はなかったのだ。正直な人だ。

その後、吉野杉ツアーと一緒にいく機会があったのだが、その時の段取りを狩野さんをお願いした。想像はしていたがやはり分刻みの綿密なプログラムが練られていた。血液型は絶対A型であると思われる。

さてスギコロであるが、そんな繊細な狩野デザインに大胆さとパワーが加わった。理由を本人から聞いたわけではないが、おそらく何かプラスされたのだろう。たぶんそれは杉の持つおおらかさ、力強さをより表現したくなっただけではないだろうか?

ボクがこのデザインを好きなのは、交差点付近に置かれ、不特定多数の人にその表情を語りかけているからだ。どうぞ座って下さいと言いながら、はっきりとした自信を持っているようで嬉しくなる。まだ座っていないが、おしりのフィット感は想像出来る。



日向スギコレクション発表当日、市民に語りかける狩野さん。右はプレゼンテーションの様様

●くなくも・かつし)デザイナー

ナグモデザイン事務所 代表。新潟県六日町生まれ。家具や景観プロダクトを中心に活動。最近は一とやまちづくりを通じたデザインに奮闘。著書『デザイン図鑑+ナグモノガタリ』(ラトルズ)など。日本全国スギダラケ倶楽部 本部

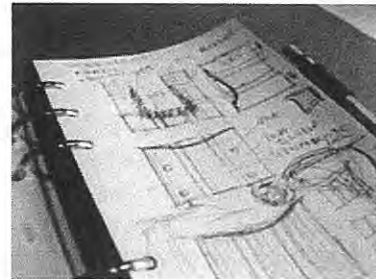
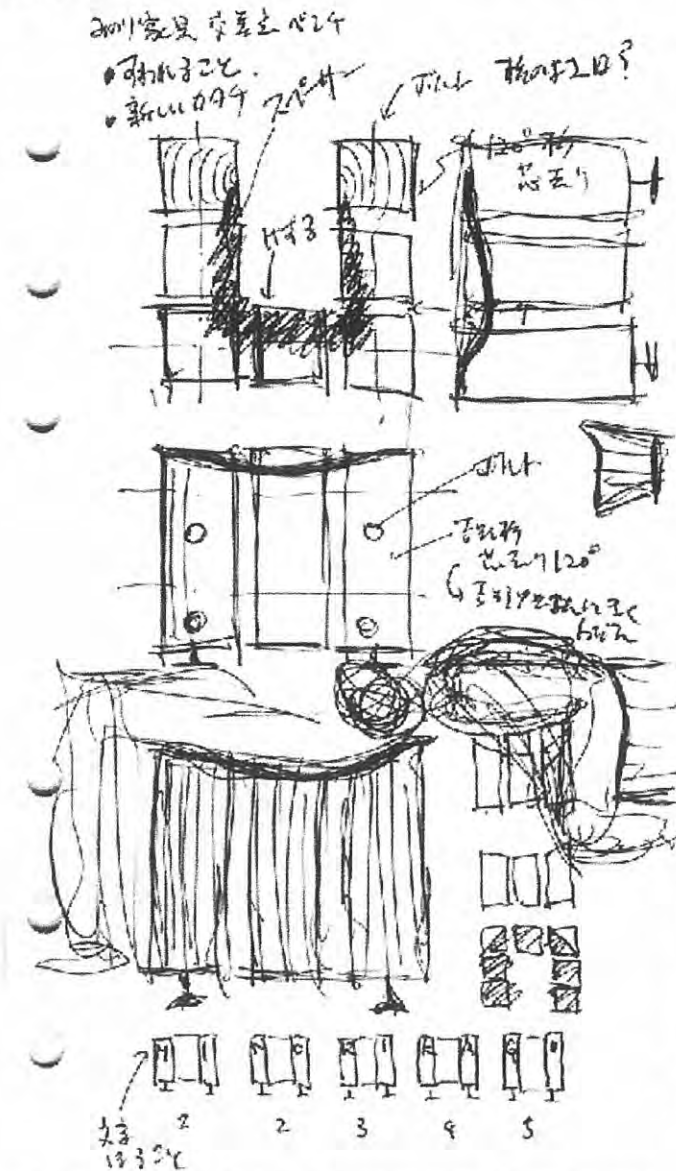
便座が発想の元! 「杉コロ」

文/狩野新(デザイナー)

もともとは椅子張り工場の前に置くベンチを依頼されたのがきっかけです。工場の前に国道を横切る横断歩道があって、信号待ちをする子どもたちに座ってもらえたら……と、依頼をいただきました。工場のPRも兼ねていたので、見慣れない形で人々に「なんだこれ?」と興味を抱かせたり、なおかつちゃんと座れるものがないなと思いました。この近辺は派手な看板が目立つカーディーラーやファミリーレストランがたくさんあります。この環境で差別化するには、派手さより、珍しさのほうが良いと思った訳です。

このデザインの発想の元は、なんと便座です。デザインをトイレで考えることもあるのですが、しゃがんでいて、あれっと思いついたんです。便座って真ん中が空いていても、座りやすいじゃないですか。それで便座のデザインを応用できないかと思ったんです。

まず、座り心地がどうか実験しました。なるべくシンプルな形の方が杉の魅力が出せると思い、杉の120角を縦使いし、とりあえずコの字に並べたのですが、これに座ると杉の角がおしりにささり、正直座れたのものではありませんでした。それで、座り具合がよくなるように、必要最小限の削り作業を行い、何度も座っては削りの繰り返しを試みました。こうして、「杉コロ」の原型が出来ました。



●スケッチ(左、上)
手帳に書き留められた「杉コロ」のアイデアスケッチ。ディテールからディスプレイ方法までが見てとれる。



●工房で撮影した原寸模型
削っては座りの繰り返し。座り心地を検討したモデル。

完成した「杉コロ」の固定タイプは、依頼いただいた工場の前に設置しました。こういうモノって設置作業中に注目を浴びることが多く、通りがかりの人々が「なにこれ？」と必ず尋ねてきます。椅子であることを伝え、説明すると、ほとんどの方が「座ってええ？」と座ってみるんです。そのあと、いろいろ意見をいただけます。(実は、仕事はかどらない!) 関西人の気質か、とにかくいろいろ言ってくれます。「この取り付けでは盗られるんちゃう?」(通行人)「いえいえ、これは設置後、アンカーボルトと接着剤で固定するのでまず取れないと思いますよ。これが金具です」(僕) なんでクライアントでもない人に一生懸命説明しないといけないだろっ……。こういうこと結構あります(笑)。

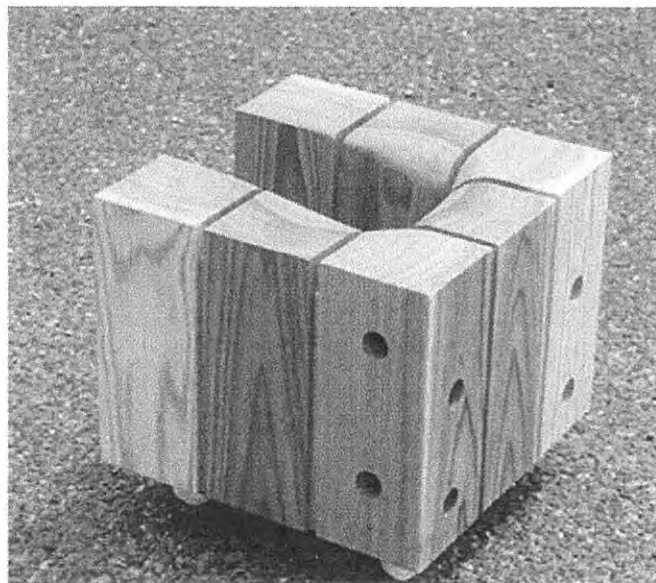
22



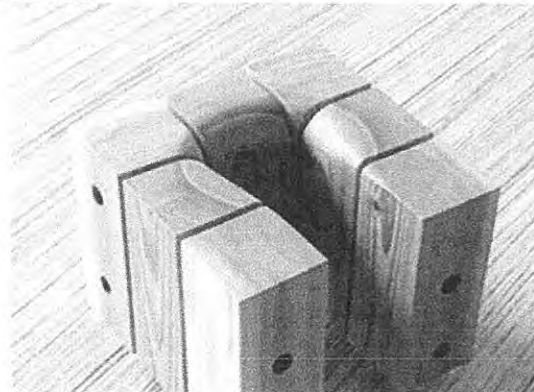
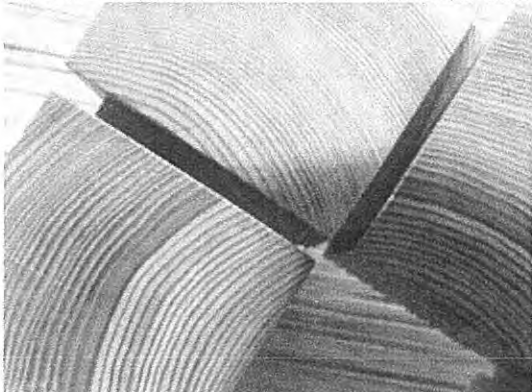
●椅子工場の杉コロ写真「杉コロ」の原点。国道沿いに設置してあります。

コロ付きの「杉コロ」はコンパクトなので、打ち合わせ先に連れて行くこともしばしば。椅子に重みがあるので、キャスターが付いているわりにはどっしりと安定していて、工房でも使っています。先日発見したのですが、床に座って「杉コロ」にノートパソコンを置くとPCテーブルにもなります。これがまた使いやすい。

使っているうちに、新たな発見がある「杉コロ」です。一家にひとついかがですか？



単体のスギコロ。角材の合わせと座面のディテール。非常に細かく磨き上げられている。



●<かのう・しん>一級建築士 デザイナー
狩野新アトリエ 代表。兵庫県宝塚市生まれ。
自宅のミニ工房で作るオーダー家具を中心に、最近は店舗や住宅のリフォームデザイン等の仕事も手がける。趣味はピアノと魚つり。

この記事の感想を書く



Copyright(C) 2005 GEKKAN SUGI all rights reserved

月刊杉 WEB版

03



バックナンバー

今月号目次

月刊杉情報

staff

links

ご感想

連載

杉ツール100選 第3回「杉太」-ナグモ少年の杉ものがたり

構成/南雲勝志

ツールというシンプルな形を通して、杉の家具材としての可能性を探る。目標100点。

第三回のスギツールは手前みそながら、杉太を紹介し
ます。

杉太はいろいろ思い出深く、この「月刊・杉」web版創刊号で
内田みえさんも語ってくれたように、自分にとってもひと
つのターニングポイントになったような気がしている。

今回は杉太というデザインを通し、そんな背景も含め語って
いきたいと思う。

まず、自分の事を少し。ボクは新潟県六日町(現在は南魚
沼市)で生まれた。自然環境は抜群である。まちの中心を流
れる魚野川、その周辺に畳のように広がる水田、そしてその
周囲を新潟国境から連なる越後山脈に囲まれ、魚沼盆地と
呼ばれる。近くには2000mを超える巻機(まきはた)山、そして
清酒でも知られる霊峰八海山がそびえる。約半年雪に閉ざさ
れる事を除けば本当に過ごしやすい環境、美しい景観であ
る。もっともそんなただの田舎臭さがいやで東京に出ること
になったのだが。

そして長い時間が過ぎ、今デザイナーという職業について
いる。いろんな仕事をやった。いろんな形を考えた。いろんな
ものをつくってきた。そしていろんな人間と会った。デザイナ
ーは一本筋が通っていないといけないと言われるが、それは
いわば精神論的な部分で、デザインする形や方向性、考え
方はむしろ自分の環境や体験で常に流動的なものだと思っ
ている。結局いつも悩み、考え、また感動したりしながら揺れ
動いているのである。

前置きはこれくらいにしよう。

ボクはこれまで、形の意味や、緻密で必然的なディテール
と美しいプロポーション、そして職人的な確かな技術がハー
モニーを奏でながら成立すると信じ、追求してきた。それは昔
も今も変わらない。そうやって開発した商品の一つが1994年
発表したproject candyという家具シリーズである。

ただしいつも限界を感じていた。ひとつはプロダクトというも
のが商品としての側面を併せ持っているからでもある。その
頃ボクは、商品はそれが売れて多くの人に使われてこそ初め
てデザインの良さが生まれるという考え方に、否定も共鳴も
出来ずにいた。

たとえば車や携帯電話などに代表されるマスプロダクトを例
にとると、自分の欲しいものがひとつもないのに大ヒットが
生まれ、グッドデザイン等の常連になり、しかも経済を動かして
いる。なんか「オカシイじゃん」と思ってもそれが現実だ。それ
で世の中は流れている。

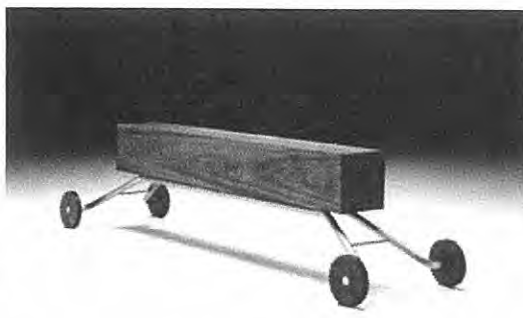
待てよ、家具はマスプロダクトじゃない、せいぜい10個か20
個のロットで自分の気持ちを通じる人だけにわかってもらえ
ばいいんだ。そう思い改め、頑張ろうとしたが10個売るとも
大変だ。人に知ってもらい、少数の家具を丁寧に作り、発送



南にそびえる巻機山の雪景色



東は八海山。このい山の中腹に小学校の学校林があった。高学年は全員で下草刈りに行った。



candy Coro-hako 収納という機能は持っているが.....

project



project candy TV-stage. 幅が2mあるために、良いんだけど自宅のリビングには

や販売後のメンテを含め、総合的にフォローしていく体制も必要になってくる。つまりとても手の掛かることなのだ。これは結構大変だ。ダメだ。ついそう思ってしまう。この辺が最後の詰めが甘いといわれる所以だ。

そんなことを思っていた頃、内田洋行の若杉浩一さんから声がかかり、これからのオフィス空間の新しい提案をしたいということで、小泉誠さんと3人で、慶応大学のG-SECという次世代スペースのための提案をすることになった。24時間、学生から研究者、そして世界中との情報のやりとりをする超マルチハイテックススペースである。

そこで考えたこと。それは、時間や人間の枠を超えてインタラクティブに作業をしていく時、実は人間は仕事よりも人間本来の本能や欲求を優先させる方が効率上がるのではないかとことだった。

この体験は面白くて、さらにそれを発展させ2001年、楽しいオフィス提案ようと「on-hot」という展示会を行った。on-hotとはofficeつまりoff-iceの反意語である。そう、やっぱり言葉や名前は大事なのだ。officeという言葉から受ける精神的イメージからまず我々は逃れなければいけない。

話がそれたが、ここでdaisugi(大杉)という物体(というものはこれは家具ではない?)を杉でつくった。主旨はこうだ。仕事空間で人びとはいろいろな行動——たとえばディスカッションをしたり、ものを書いたり、パソコンに向かったり、疲れたら休んだり——をする。そんなさまざまな行動を一気に包み込む母艦のようなものがあれば、人はそこに集まり、憩い、少し離れて自分だけで作業をしたり、とてもキャパシティのある空間が生まれるのではないかとことである。母艦の回りには仕事を楽しくするもろもろの戦闘機も生まれた。

ここで言いたかったのは、オフィスというきっちりした空間の中におおらかに、いい加減で頼りになる、そんな存在が必要だということだ。

この少し前、20世紀の終わり頃(すごく昔のよう)、宮崎県日向市でまちづくりに関わり始めた。何と宮崎県は杉生産日本一。それをまちづくりに生かしたいと指令が出た。この頃から、30年間封印していた生まれ故郷の風景や杉の事がやたらと頭をよぎるようになった。単に歳をとっただけではない。忘れていた大切なものが蘇りだしたのだ。

それは現代の社会が抱えている問題や、始めに書いたデザインに対する疑問、もっと言えばこれから日本人はどこに向かって何を大切にしていけばいいか? そんな事に対する答え探しの様相にもなってきた。ただそれはそんなに簡単な作業ではなかった。ゆっくりゆっくり記憶をたどりながら、思考錯誤していく感じだ。

でも一人で考え、悩んでも埒があかない。仲間を増やそう、と思った。それで若杉さんや千代田さんに声をかけ結成したのが、あの「日本全国スギダラケ倶楽部」である。深刻な杉問題を考える会ではなく、杉とともに日本人を考える明るい会にしたい。冗談から杉ではないが、同調してくれるスギダラな人びとがとても多く、重くなった組織を今後どうしていこうかという悩みも抱え始めた。

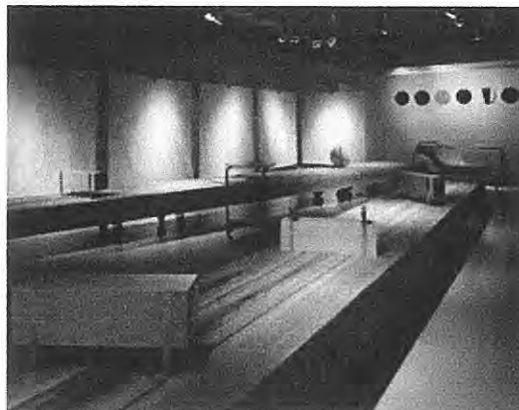
さて、なかなか杉太に行かない(杉を語ると話はいつも長くなる)。

話を元に戻すと、家具のデザインに行き詰まりを感じていたボクはここで杉に少しシフトする傾向が生まれてきたのだ。もうどうだっていい。家具業界の流れや、売れる売れないといっ

いらないとよく言われた。



慶応義塾大学 G-SEC



on-hot展 大杉とその仲間達



宮崎県日向市市10街区



製材所に積まれた杉の角材。

た議論、マーケティングだとか、最近の傾向。そんなすべてのしがらみから離れ、今必要と思え我々がこれから大切にしていかなければならないことをやろう。これは杉そのものが持つ特有の大雑把さと、弱さ、そしてまちづくりやそれに関わった多くの人びとの声から判断した今世紀になってからのボクの判断だ。

2002年秋、二つのイベントがあった。ひとつはTOKYO DESIGNER WEEK「椅子展2002」という展示会である。実験家具というテーマである。ここで思ったこと。そのころちよく行くようになっていた製材所で見ると杉の角材はとってもきれいに思えた。あれを何とか出来ないだろうか？ 時間をかけ金をかけ、いろいろやるよりもっと大切なことがあるんじゃないか？ 自分たちの宝を見直そう！ そんな気持ちを込め「杉子」という家具を発表した。これは家具というよりそのまま、角材を束ねただけだったので、内藤廣さんはじめいろんな人に、手抜きだ、手抜きだと言われていた。ボクにとってはもちろん手抜き等でなく、もうくだらない家具をつくるのはやめよう、もっと身近に良いものがあるじゃないか、というメッセージだったのだが。

もうひとつは新宿のOZONEで行われた「イスコレ商店街」である。メンバーは五十嵐久枝、上田麻朝、小泉誠、村澤一晃、若杉浩一とボク。10回ほど続いた鈴木恵三さんプロデュースの「イスコレ」最終回だ。それまでずいぶんいろいろな家具がその展示会で提案されたが、最終回は見せるだけでなく、売っちゃおう！ という企画であった。まずい……自分が最も苦手とするところだ。こいずみ道具店の小泉さんなどは次々と売れるものをつくるに違いない、どうしよう。

ここで考えた。ともかく今回は売らなければならない。それも上代2万円である。送料、梱包用の段ボールなども必要。すると下代1万円？ いや、ここまできたら杉で行こう！ 金をかけず魅力的な家具にすればいい。最小限手をかけて、杉の良さが伝わって、そのために表情を持たせて。

コストダウンも考えた。角材は磨きすぎない方がいい。モルダーを通すだけにしよう、とか、塗装はやめよう、金具はただの鉄でいい。いや、さびるから磨かないステンレスだ。でも杉が曲がるからアジャスターは必要だ……と、岐阜のセンダイ家具、千代稔さんに相談しながら試行錯誤した。

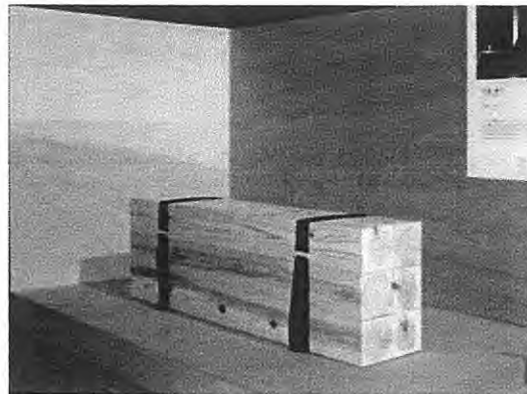
「金具が下がらないんですよ、10個セットでは」
「もういいよ、金具は20セットでも。とにかく安く安く」

そんな会話をしながら、試作品が出来た。金具の角度の微調整以外はほとんどイメージ通りに出来た。「ヨシ、あとは売るだけだ」。

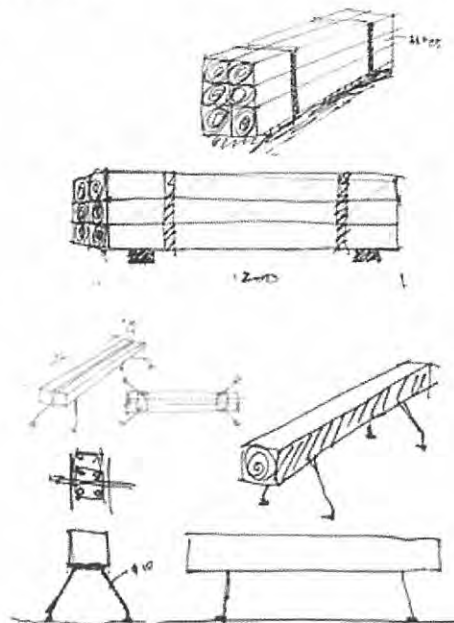
不安のまま展示会当日を迎える。やはり小泉さんは売りまくっている。「やばい！」と少し思ったあとで「ナグモさん一台売れましたよ」とスタッフから声がかかる。それからはばらばらと売れ、何と初日だけで目標の十個が売れた。結局予約も入れ、展示会終了までに20台売れた。「良かった！」徐々に売れる喜びを感じた瞬間であった。

しかし、それ以降本気で商品化する気持ちも湧かず放っておいた。唯一、若杉さんが会社(内田洋行)に打診してくれたが、「おまえ何考えてるんだ！ ウチに杉の角材を売れているのか！」と一括されたらしい。断られたにせよ、とってもうれしかった。

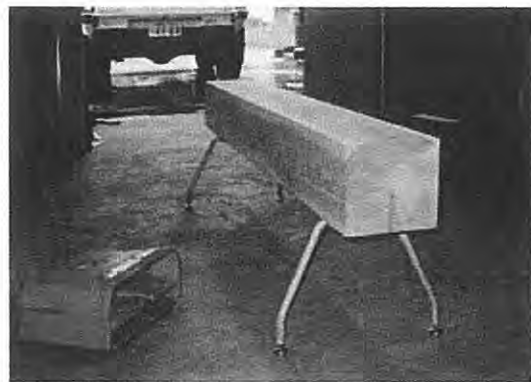
正式な商品化こそしていないが、この杉太君は意外とと登場する機会が多い。現在も内田洋行のショールームに自分の家のような顔をして住んでいるし、展示会やイベントがある



杉子とスケッチ。



杉太のスケッチ



センダイ家具にて試作チェック

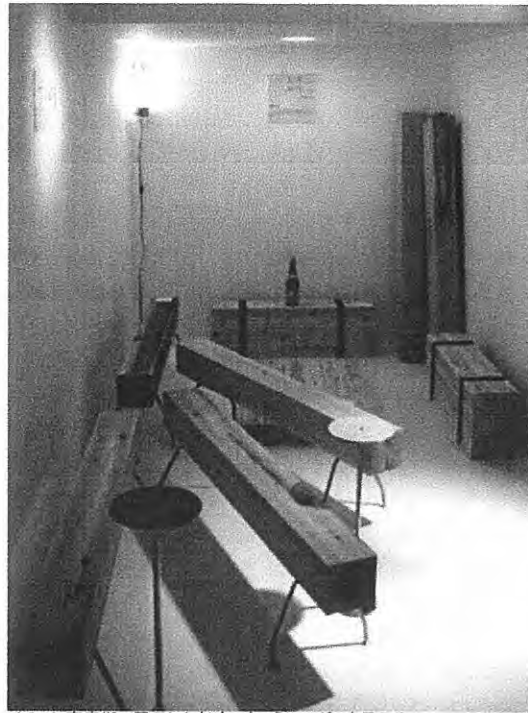
27

とすぐに呼び出される。じゃまにならず、主張しすぎもしない。何かと便利な存在なのである。そしてその時々、出会ったひとの一部が「あの～あそこに置いてある杉太とかがつてやつですけど、買うことが出来るんですか？」
もちろんである。少しいやいいやながら千代さんも協力してくれる。

そうか！ こういう存在の仕方もあったんだ。焦らず、心配せず、欲しいと思った人にその都度供給していく。それで良いんだ。あれ、でも昔の職人さんてたぶんそんな調子でものをつくって売っていたんだ。

あまり過度の期待しない方がいい。自然に行こう。

そう「杉太るは、なお及ばざるが如し」だ。



イスクレ商店街で展示した杉太。向こうにスギコも見える。

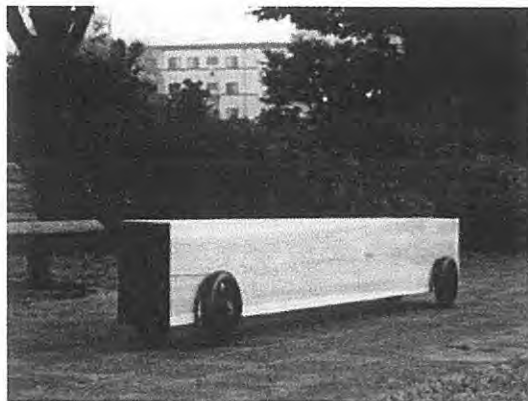


その後もスギダラ三兄弟(若杉、千代田、南雲)は杉の可能性を信じ、きっと世の中のためになると、まじめに啓蒙活動を続け、スギスギとスギダラケの家具開発をしていくことになる。どんどん大きくなり、どんどん重くなり、どんどん長くなり、バリエーションは増え続けている。

家具だけでなくとどまらず、シェルターやウォールはもちろん屋外のストリートファニチャー等でもその勢いは止まらない。

今、思っていること。それは、杉太やその仲間たちを1社で商品化し、販売するのではなく、その土地土地でそれぞれの杉を使い、それぞれの職人さんの手で少しづつ形や雰囲気を変えながら、その地域に根付いていく存在になってくれれば、ということだ。そうやっていかなかったら埒があかない。なんとって杉は日本中に山ほど(山だけど)ある。もっともって杉と人の良い関係を増やしていかないと。

そして人と人の良い関係がそのあたりから生まれるような気がしてならない。



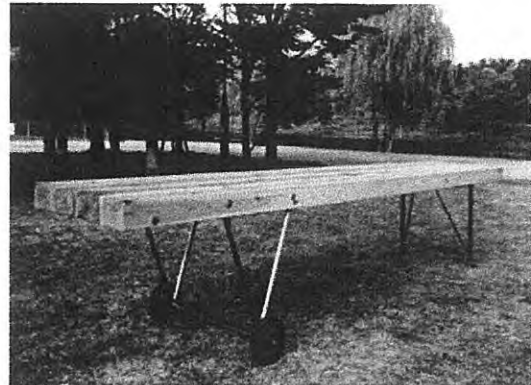
動杉(ウゴキスギ):長さ3m高さ40センチ

●くなくも・かつし>デザイナー

ナグモデザイン事務所 代表。新潟県六日町生まれ。家具や景観プロダクトを中心に活動。最近は一とやまちづくりを通じたデザインに奮闘。著書『デザイン図鑑+ナグモノガタリ』(ラトルズ)など。日本全国スギダラケ倶

28

楽部本部



杉平 (スギヘイ): 6mの120角の角材4本。台の高さは700。組み立て方法使い勝手とスギダラー族の傑作



公園に並んだスギダラファミリー。杉太も右下に見える。なりは小さいが杉太はやっぱり基本形。

この記事の感想を書く



Copyright(C) 2005 GEKKAN SUGI all rights reserved

29



バックナンバー	今月号目次	月刊杉情報	STAFF	LINKS	ご感想
---------	-------	-------	-------	-------	-----

連載

杉ツール100選 第5回「カタコト」

構成/南雲勝志

スツールというシンプルな形を通して、杉の家具材としての可能性を探る。目標100点。

「家具の授業で試みたデザインと杉」

ICSカレッジオブアーツというデザインの専門学校で何年か家具の授業をやってきた。

「みみっちいことは良いからおおらかで自由な発想で座るということ表現して欲しい」といった調子で今までやってきたが、今年はやっと指向を変えてみた。

個性を大事に。客観性を見据えた主観を主張して、と言ってはみるものの、どうも自由すぎてデザインの元、つまりそれが存在する意義、理由、社会性などが希薄になってしまう感があったからだ。

ある程度限定した条件を出そう。ちょうど日向市の富高小学校の課外授業を終え、少し落ち着いた頃だった。少々リスクだとは思いつつ、これで行こうと決めた。

「杉といく懐かしい未来」

へへ、コンフォルトの4月号の特集タイトルをそのままいただいた。

小学生でもあそこまで出来る。専門学校なら……、そう期待をしたのであった。

コンフォルトの編集担当内田みえさん、そして富小課外授業講師陣の若杉浩一さん、千代田健一さんを総動員して、杉とゆく懐かしい未来の意義を語ったつもりであった。

杉の置かれている現状、そうなった背景、輸入材や経済の問題、そしてこれからどうやっていくことが自然な社会なのか？ その時デザインとはどんなかたちで社会に貢献出来るのか？ 懐かしいという言葉の本質的な意味、その辺をよく考えてチェレンジして欲しい。そんな課題であった。

しかし、事はそう簡単ではない。いったい何の事なのか、杉……？何をどうすればいいのか悩んだに違いない。この手の思考には体験や経験が必ず必要だからだ。

とりあえず、グループワークをやり、近場の埼玉県西川に製材所や工場見学に行き、木材関係者にいろいろ話を聞かせていただいた。ただ、耳や目からの情報と体験は違う。さらに植える増やせといわれた頃の現実も知らない。そういう意味では結構難しかったに違いない。思考が進むか止まるか紙一重だと思う。

半年かけて行った授業でようやくプレゼンを迎える。結果、今までのどの年よりも見た目は地味であった。しかしデザインという言葉の表面だけの華やかさ、そして経済や消費に埋没した生産の危うさ。そんな事に対して弱くも真っ向から直球で向かっていこうという気持ちよさ、素直さ、潔さ、そんな姿勢に好感がもてた。

地域や地場、そこに生きる人びと、そしてそこから創られるモノがどう存在していくことが社会に貢献出来るか？そこで自分はデザインを通して何が出来るか？ そんなことをこれからすこし感じてくれたらありがたい。

いくつかの学生の作品のなかで下村麻友子さんのデザインを紹介します。「音」をひとつのテーマにしています。杉という素材の奏でる軽い音を何とか出せないか？ そんなことをずーとやってみました。

●くなくも・かつし>デザイナー

ナグモデザイン事務所 代表。新潟県六日町生まれ。家具や景観プロダクトを中心に活動。最近ではひとやまちづくりを通じたデザインに奮闘。著書『デザイン図鑑+ナグモガタリ』(ラトルズ)など。日本全国スギダラケ倶楽部 本部

「カタコト」が出来るまで。

文 写真/下村麻友子



今回「杉といく懐かしい未来」というテーマを受けて、まずは杉という素材を知ることが勿論、「懐かしさ」という言葉のもつ意味を考えることからスタートしました。「懐かしさ」は、「なんとなく」の行為の味わいみたいな、たとえば、ふと窓から空模様を見たり、電話しながらペンをもっていると無意識に落書きを描いてしまったり、音楽を聴きながら自然と指でリズムをとっていたりするときとか、そんなものだと思います。そうやって過ごすことが多い家ででの時間を演出してくれる、玩具のような家具を作ってみたくて思いました。

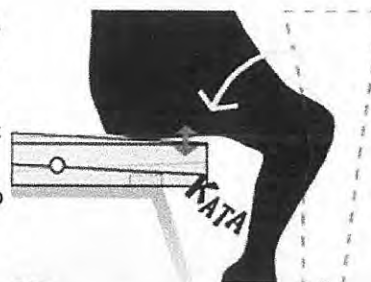
かるく杉を叩いたときにでる音がやわらかく心地よかったので、杉材を叩きつけて数時間、数日、数週間……。杉同士をぶつけたときの音を楽しめる家具を作りたいと思い、木琴のうえに座っちゃえばいいじゃん！という感じのノリで模型やスケッチを続けました。腰掛けるときに音が鳴るしくみを、板にバネを取り付けて試みましたが、金具を取り付けて固定させると手入れをするのも不便……。シーソーみたいに動かしては？というアドバイスを先生からいただき、パイプに串刺しにして固定の枠を作り、Aをパイプにのせるだけで、固定の枠Bにぶつかったときに音が鳴るようにしました(図2)。

勢よく腰掛けるとAが固定されていないためパイプから外れてしまい危険だったので、Aにジャンパーホックを取り付けて革でパイプを包むことにしました(写真1)。

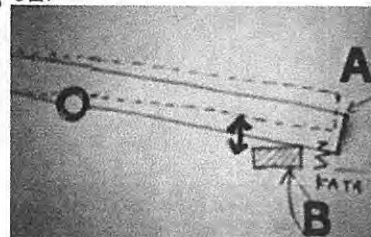
木口が並ぶ様は綺麗で、でも不揃でナカナカかわいい！ 実作中も簡単に傷がついてしまいましたが、水をつけて磨くとすぐに元通りになることを教わりました。愛情を注ぎ続けてあげれば生き続けるんだなあ、とモノの大切さを身にしみて感じました。

また、「素材に適した自然な形」というものを、先生方や見学させていただいた製材所の方(材料の手配もしてもらいました)、そして職業訓練校の先生、杉のカットと加工してくれた職人さん、ステンレスの足を作ってくれた鉄鋼所の職人さんから学びました。大感謝です。

杉は社会に対しての「やさしさ」を考えるきっかけをあたえてくれました。今後いろんな素材で家具を作っていきたいと思いますが、その出発が杉だったことは、未来の私にはとても重要なことになるような気がしています。スギダイスキ。



●図1

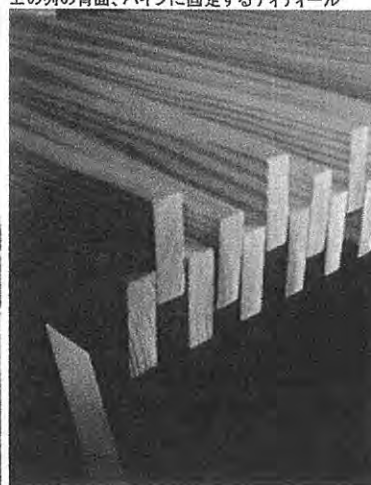
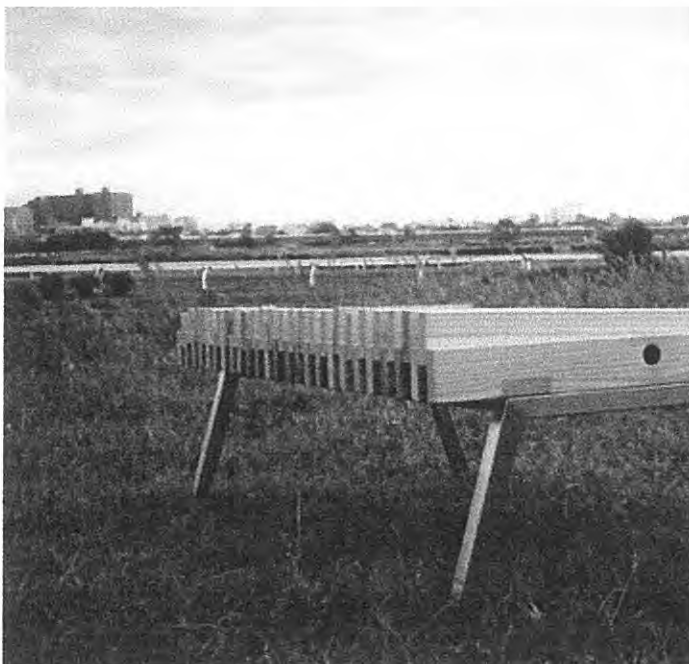


●図2



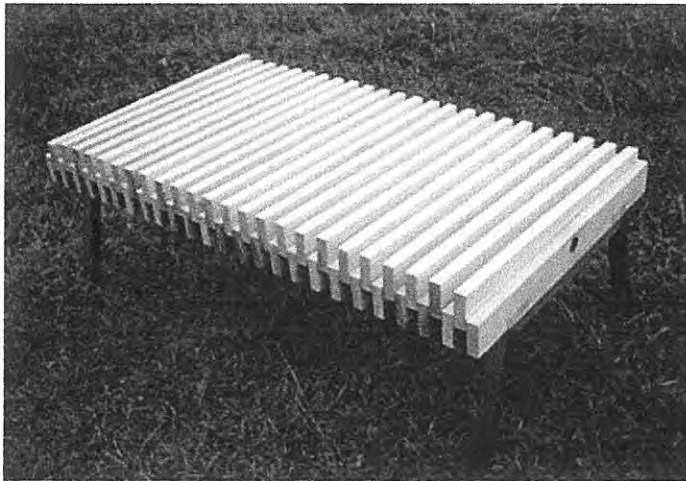
●写真1

上の列の背面、パイプに固定するディテール



●写真2.3

下の一列が固定枠、上の列が座った時、パイプを支点にシーソーのように傾き、カタコトと音が出る。杉の音は乾いた軽い音でとても気持ちのいい音です。



●写真4

本当はこの幅でどこまでも続くようなずっと長いものをつくりたかったんですが、予算の関係と自分本人が座るの部屋に入れる関係上今回はこのサイズにしました。



●写真5

●くしもむら・まいこ>IGSカレッジオブアーツ学生

※11月24日から東京ビックサイトで行われた東京国際家具見本市でこの授業で製作した7点の作品がIGSカレッジオブアーツのブースで展示されました。



展示風景



tsustusni



ohitsu

この記事の感想を書く

22

